

建屋周辺の地下水位、汚染水発生量の状況

2026年 1月 29日

TEPCO

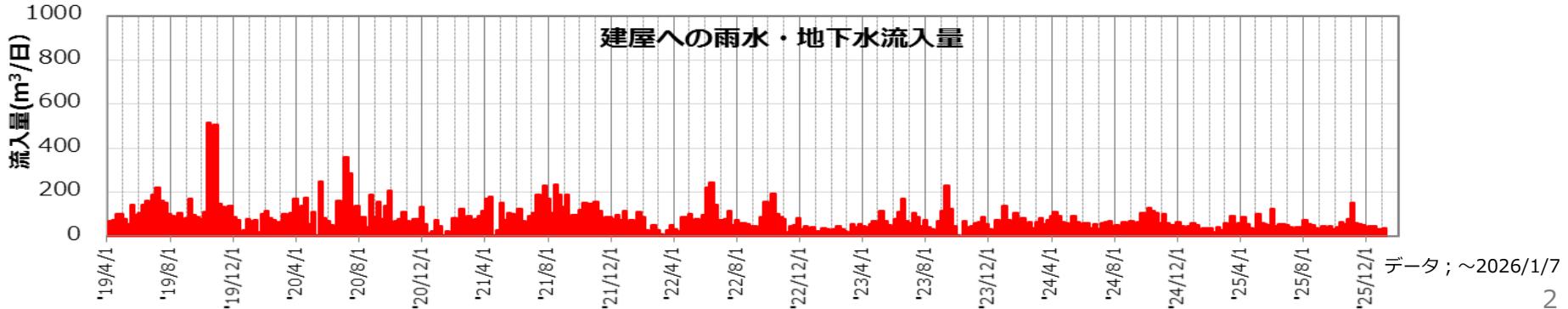
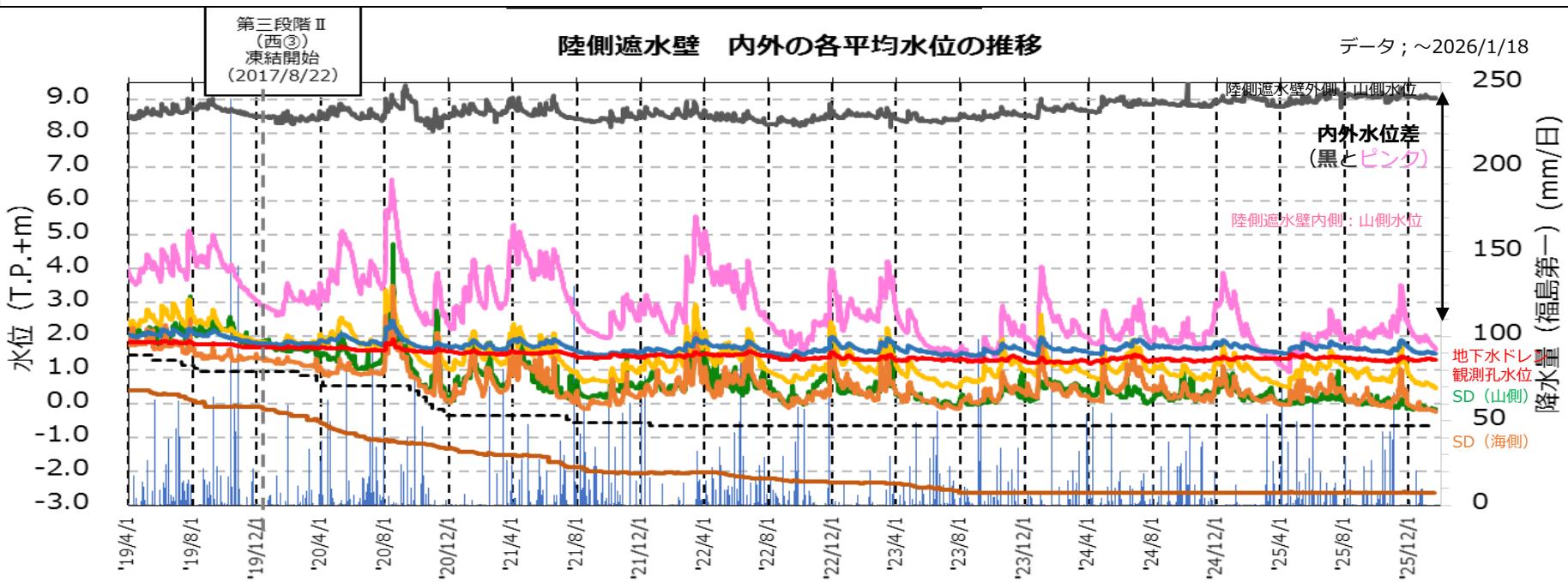
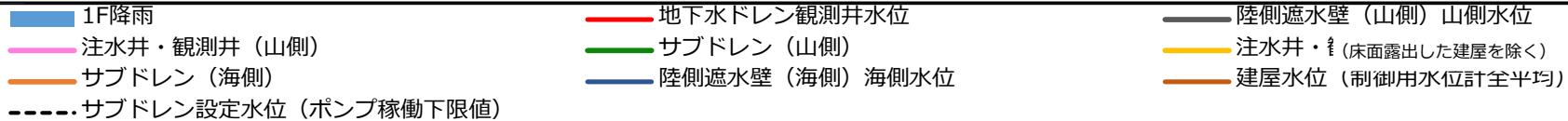
東京電力ホールディングス株式会社

1. 建屋周辺の地下水位、サブドレン等のくみ上げ量について	P2～3
2. 汚染水発生量について	P4～6
3. 汚染水対策の実施状況	P7～11
4. 地中線量調査の状況	P12～18
(参考資料)	
参考1. 地中温度分布	P19～26
参考2. 地下水位・水頭の状況	P27～33
参考3. 建屋間ギャップ端部止水対策の補足資料	P34～37
参考4. 地中線量調査結果	P38～54

1-1. 建屋周辺の地下水位の状況

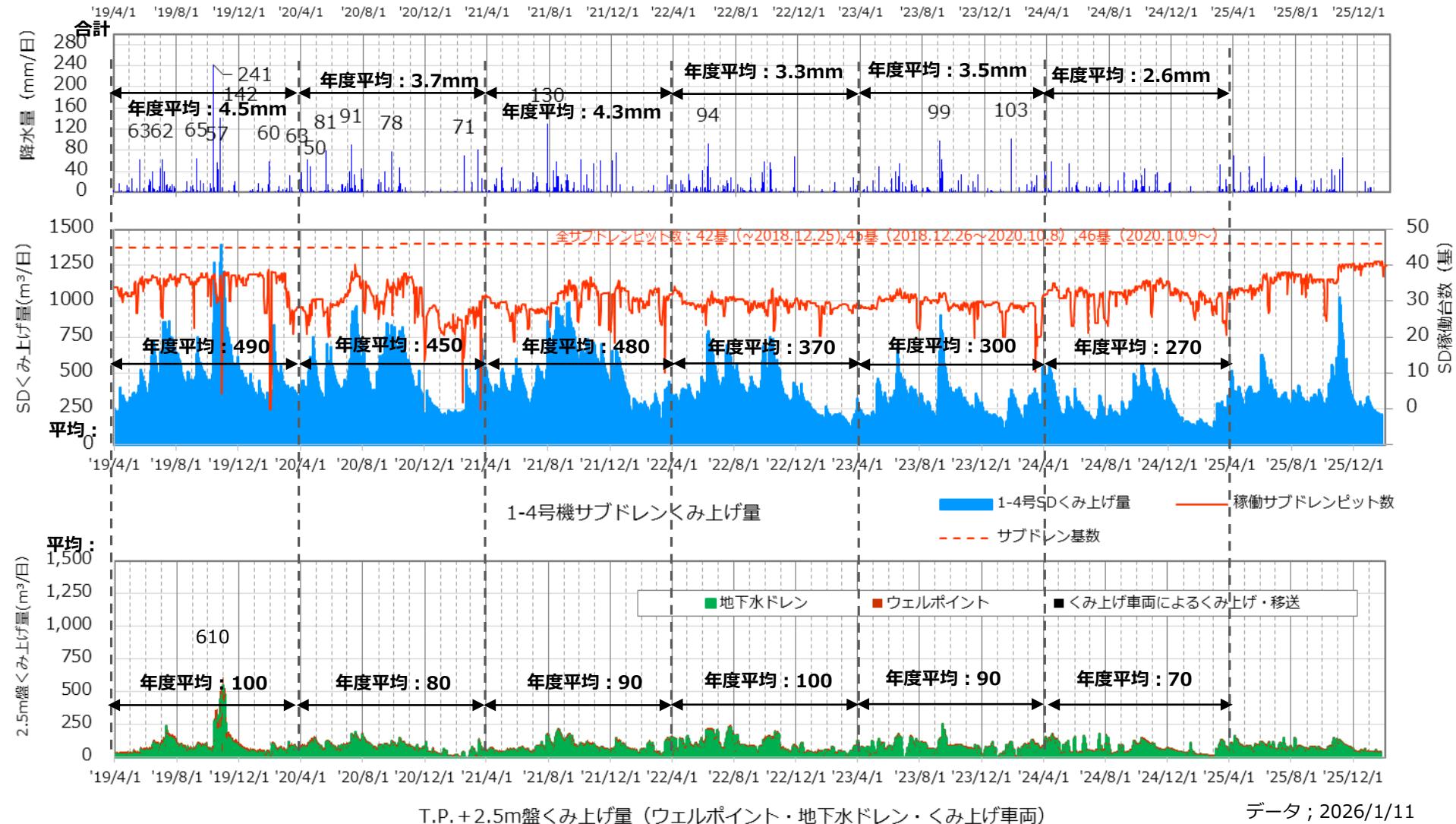
TEPCO

- 陸側遮水壁内側エリアの地下水位は山側では降雨による変動があるものの、内外水位差は確保した状態が維持されている
- 地下水ドレン観測井水位は約T.P.+1.4mであり、地表面から十分下回っている（地表面高さ T.P.+2.5m）



1-2 サブドレン・護岸エリアのくみ上げ量の推移

- 1-4号機サブドレンは、降水量に応じて、くみ上げ量が変動している状況である
- T.P.+2.5m盤くみ上げ量は、T.P.+2.5m盤エリアのフェーシングが完了しており、安定的なくみ上げ量で推移している状況である



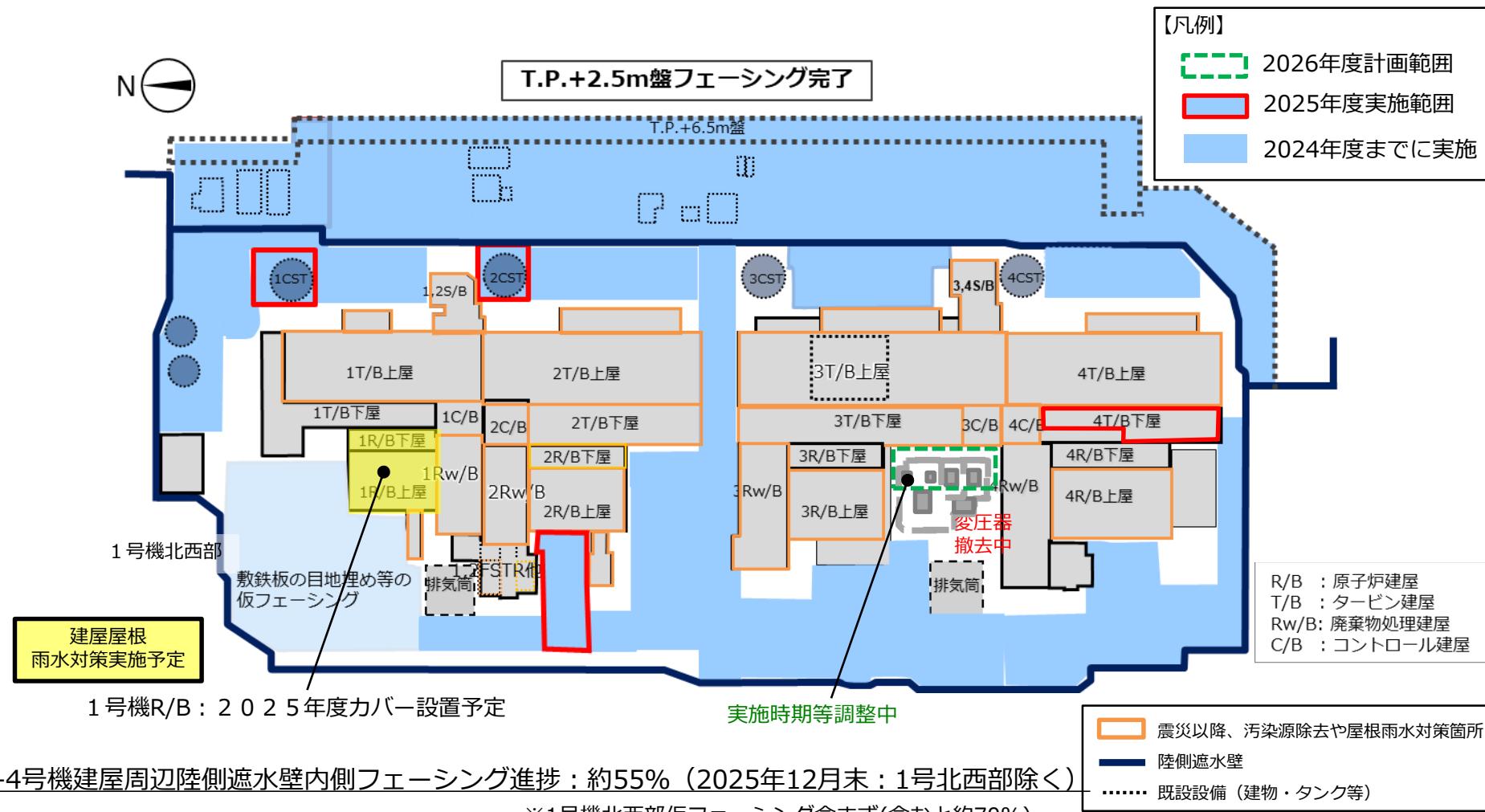
※年度平均値は、降水量を除き10m³単位で四捨五入

2-1 汚染水発生量の状況（2025年度）

- 2025年度（12月迄）の汚染水発生量は約19,000m³と2024年度同時期と比較し、降雨量は250mm多いものの約3,000m³少ない状況である。
- 建屋流入量の抑制施策として、1-4号機建屋周辺のフェーシングは継続実施しており、局所的な建屋止水による抑制効果が確認され始めている。
- 廃炉作業に伴い発生する移送量の抑制では、排水路のゲート閉鎖時の汲み上げ水やフォールアウト由来の1-4号機建屋周辺トレーニング等のたまり水を貯留タンク堰内の雨水処理設備の処理対象水に適用しており（2024.9認可）、さらに対象水を追加している。

汚染水発生の要因 (項目)	2024年度		2025年度 12月迄の実績(m ³)	今後の施策 <u>進歩状況</u>
	12月実績(m ³)	通年実績(m ³)		
汚染水発生量	約22,000 (約80m ³ /日)	約26,000 (約70m ³ /日)	約19,000 (約70m ³ /日)	
① 建屋流入量 (雨水・地下水等の流入)	約18,000 (約70m ³ /日)	約21,000 (約60m ³ /日)	約15,000 (約60m ³ /日)	<ul style="list-style-type: none"> ・建屋周辺フェーシング ⇒継続実施中 ・サブドレン水位低下 ・1-4号機建屋局所的な建屋止水 ⇒3号機ギャップ止水実施中
② T.P.+2.5m盤からの建屋移送量	約2,000 (約5m ³ /日)	約2,000 (約5m ³ /日)	約2,000 (約5m ³ /日)	<ul style="list-style-type: none"> ・サブドレン水位低下
③ 廃炉作業に伴い発生する移送量	約1,000 (約5m ³ /日)	約2,000 (約5m ³ /日)	約1,000 (約5m ³ /日)	<ul style="list-style-type: none"> ・設備の確実な運用管理 ・たまり水の処理計画の策定 ・雨水処理設備の処理対象水の拡大（2024.9認可） ⇒トレーニング水を対象に運用中 さらに対象水を追加している
④ ALPS浄化時薬液注入量	約1,000 (約5m ³ /日未満)	約1,000未満 (約5m ³ /日未満)	約1,000未満 (約5m ³ /日未満)	
参考	降水量 (mm)	795mm	941mm	平均的な降雨 (約1,470mm/年度)

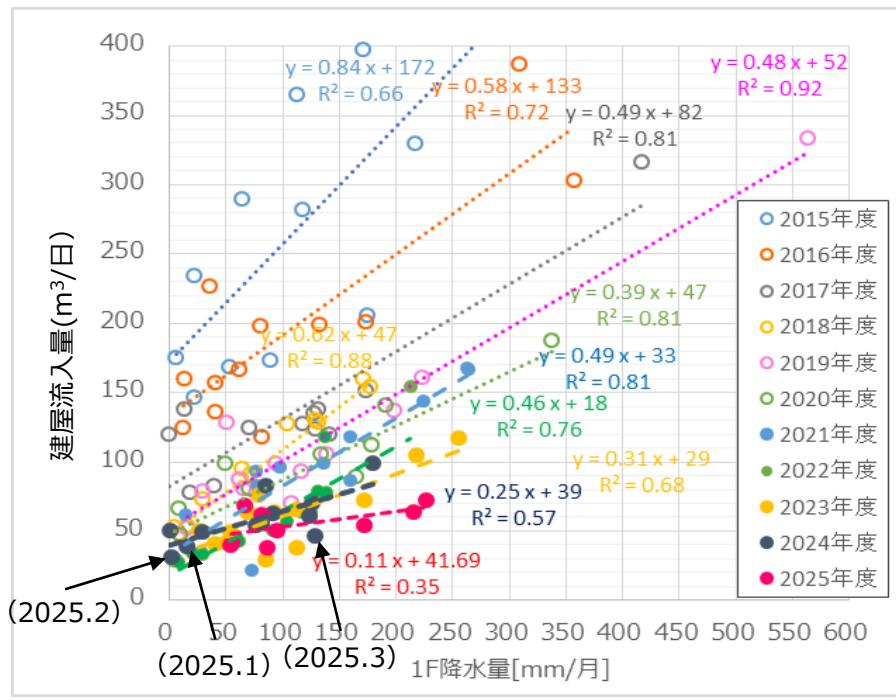
- 1-4号機建屋周辺のフェーシングは、2号機R/B西側エリアを2024年度に引き続き実施中（2026年1月中に完了予定）。1・2号機海側のエリアは完了。
- 2026年度は、3号機R/B南側エリアで変圧器撤去後にフェーシングを計画中（実施時期等調整中）
- 建屋屋根がれき撤去に関しては、4号T/B下屋が完了（海側アクセスで取り切れない範囲は、今後山側から撤去を検討（3/4号機排気筒撤去後を予定））



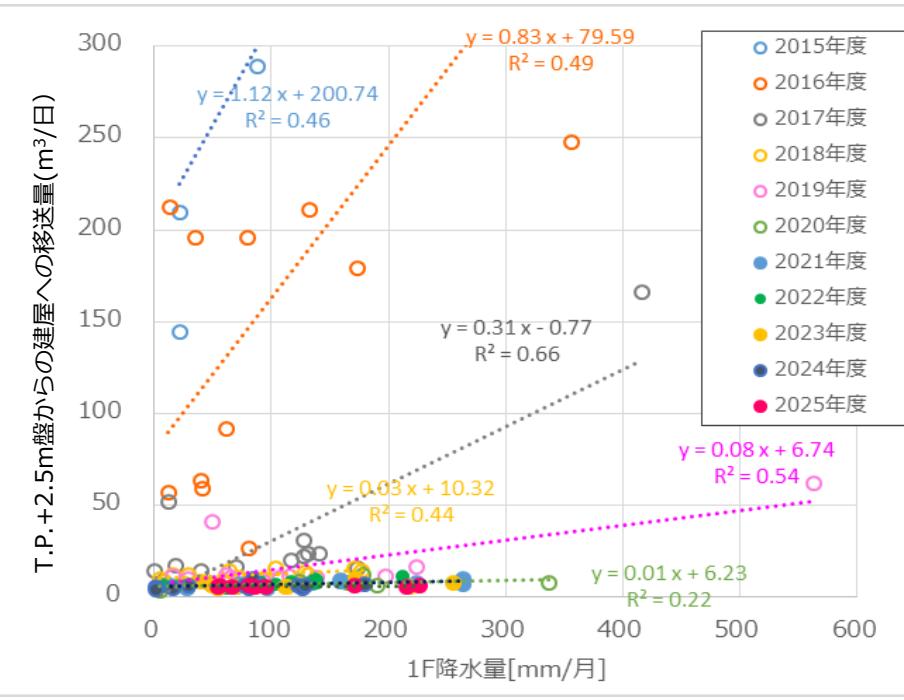
2-2 建屋流入量及びT.P.+2.5m盤からの建屋への移送量と降雨量との関係 **TEPCO**

- 2025年度は、2024年度に比較して降雨量に対する建屋流入量が低減してきており、2024年度の渴水期（2025年1～3月）においても低減が確認されており、局所的な止水対策の効果が表れていると評価しているが、引き続き低減対策を実施していく。
- T.P.+2.5m 盤からの建屋への移送量は降雨量によらず、安定して地下水を汲み上げて運用を行っているものの更なる低減方策を検討していく。

建屋流入量



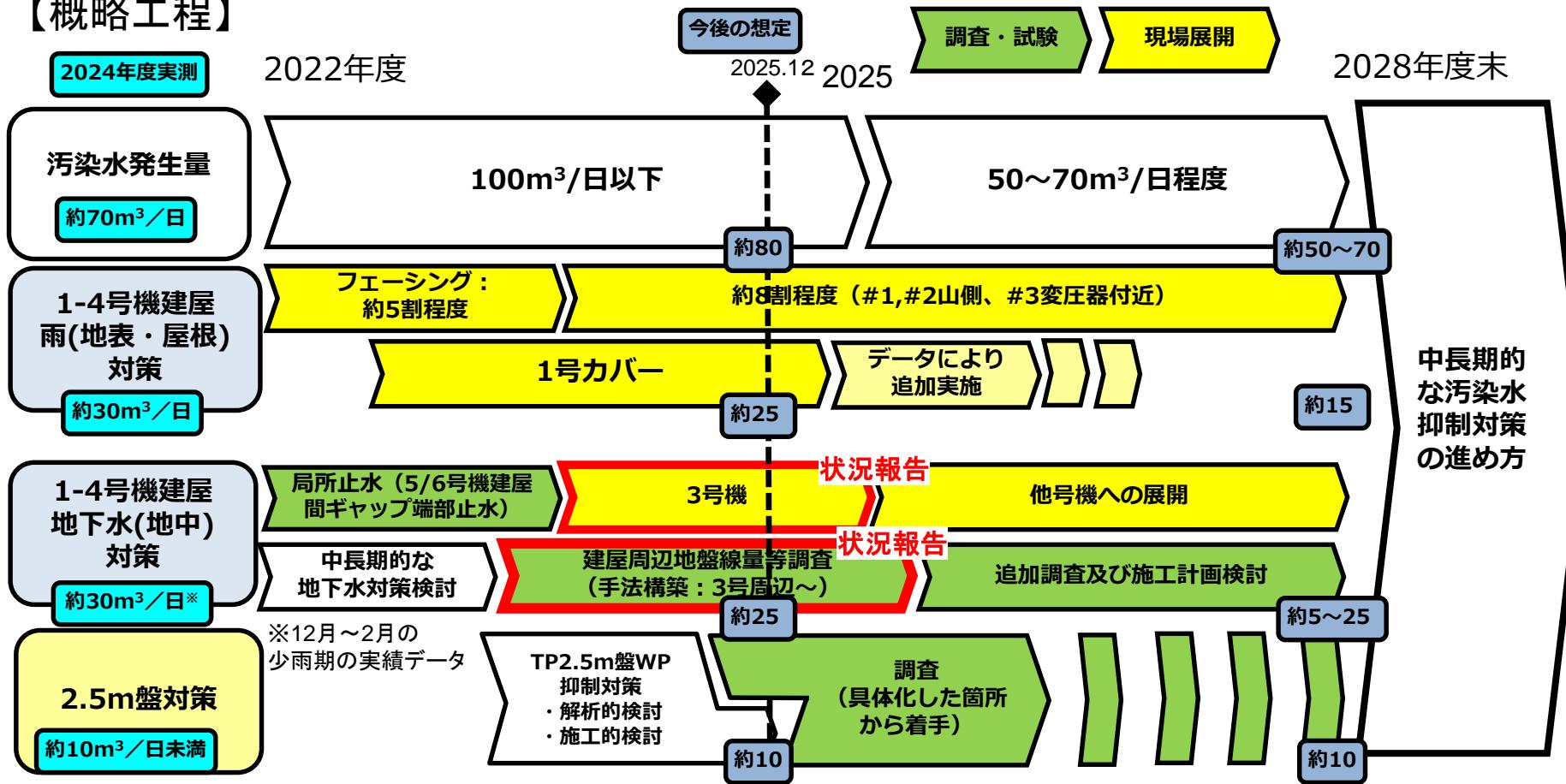
T.P.+2.5m盤からの建屋への移送量



3-1 汚染水抑制対策の状況について

- 現在、1-4号機建屋の雨対策と地下水対策は計画通り進めている。3号機のギャップ端部止水は2025年9月時点で、6か所中4か所完了し、2025年度中に残り2か所も完了する予定である。
- 地盤線量等調査も2025年度実施予定個所（11か所）（1/2号機海側、3/4号機周辺）が完了し、2026年度実施個所（約10か所）の現地踏査を実施し、試掘による調査準備を開始している。

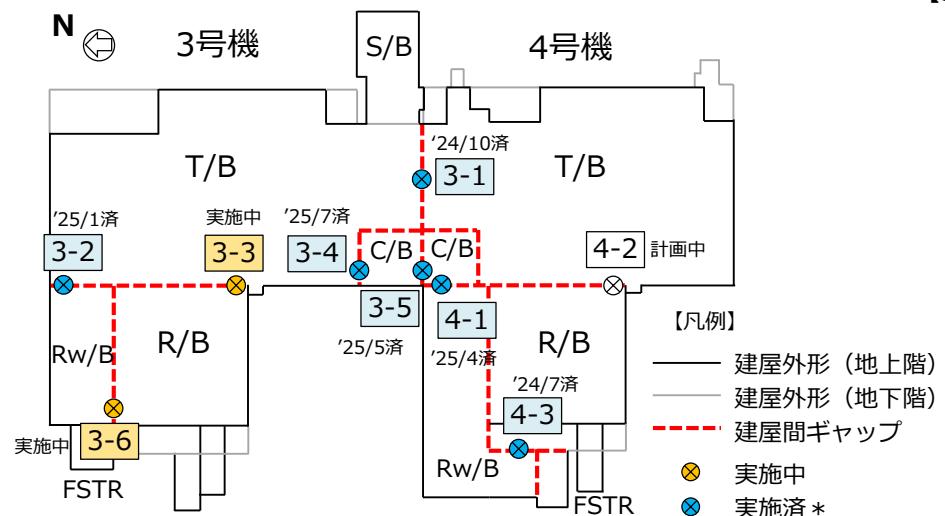
【概略工程】



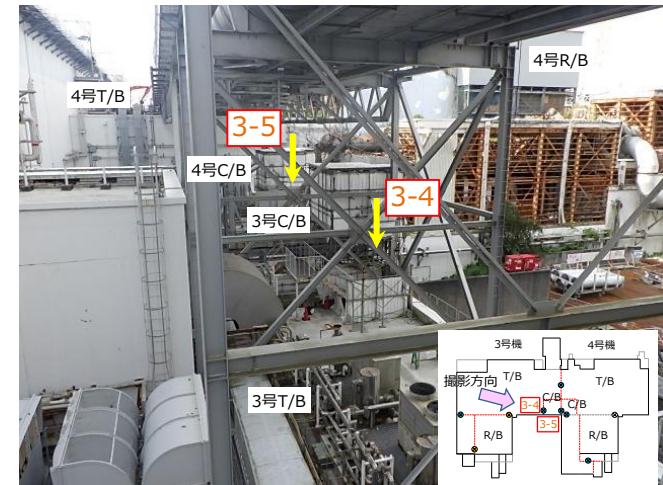
3-2 建屋間ギャップ端部止水対策の実施状況

- 3号機：全6箇所のうち、4箇所完了。残り2箇所は、2026年2月止水（モルタル充填）完了予定（ポリブタジエインは品質確保のために冬季を避けて2026年4月以降充填予定）
- 4号機：全3箇所のうち、2箇所完了（3号機工事と合わせて実施）。残り1箇所は、2026年度実施予定
- 1, 2号機：2026年度より着手し、2028年度内を目途に実施予定

【ギャップ端部止水実施箇所と進捗】



【3号機建屋間ギャップ端部止水実施状況（3-4、3-5）】



*モルタル止水完了

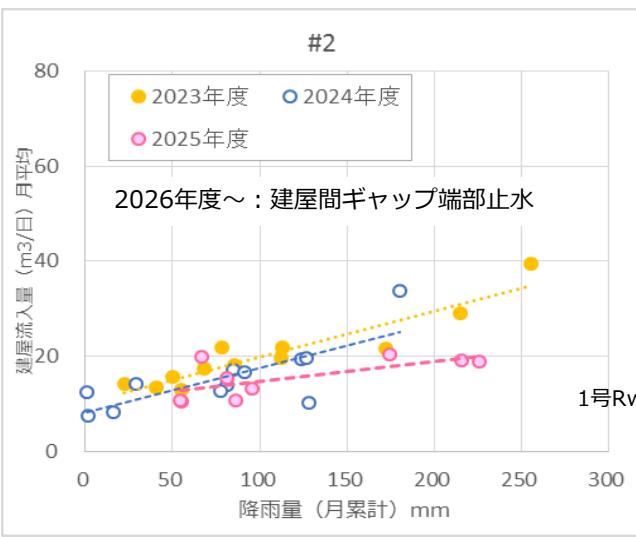
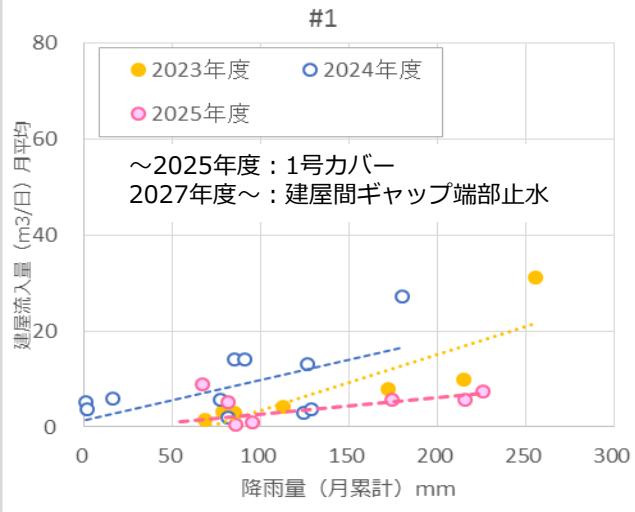
【今後の予定】

		2025年度										2026年度		2027年度		2028年度	
		6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	上期	下期	上期	下期	上期	下期
3号機	3-3																
	3-6																
4号機	4-2																
1・2号機																	

※上記工程は計画で有り、廃炉作業との調整により実施時期が変更となる場合がある

3-3 各号機別の建屋流入量

■ 建屋間ギャップ端部止水対策を進めて行くことにより、3号機以外についても建屋流入量の低減状況を確認していく。（1号機については、PCV水位低下、炉注変更の影響が含まれている）

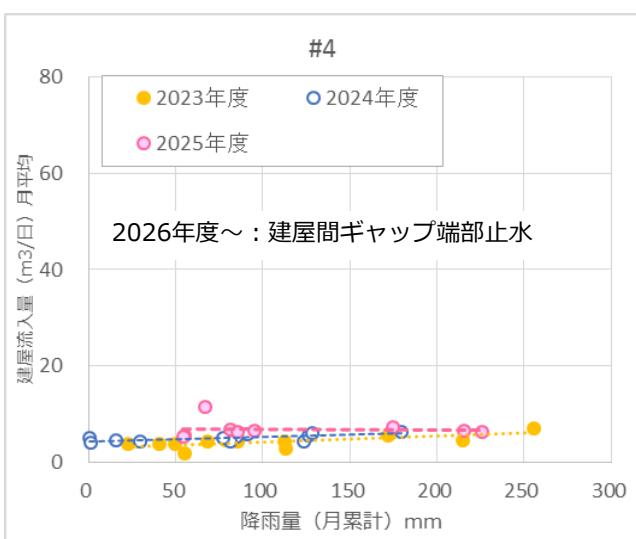
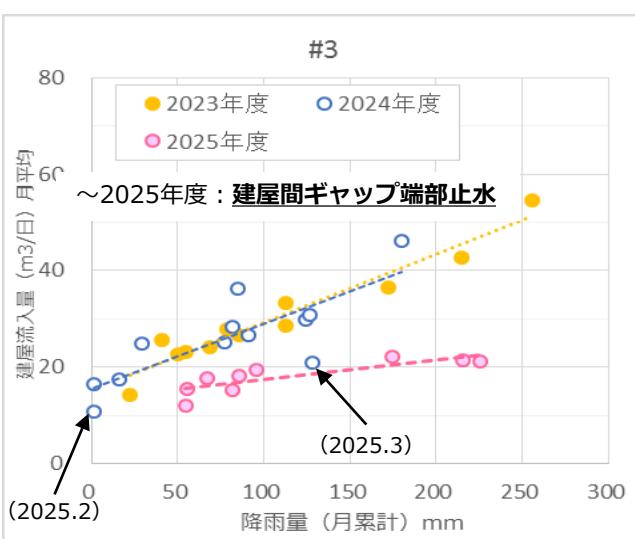


(建屋流入量の発生推定要因)

- ✓ 地下水 : 切片の値
- ✓ その他 (雨水等) : 勾配×降雨量

1～4号機建屋流入量 (週報値)
2023年度 : 約60m³/日
2024年度 : 約60m³/日

2025年度 : 約50m³/日
(4月～12月)

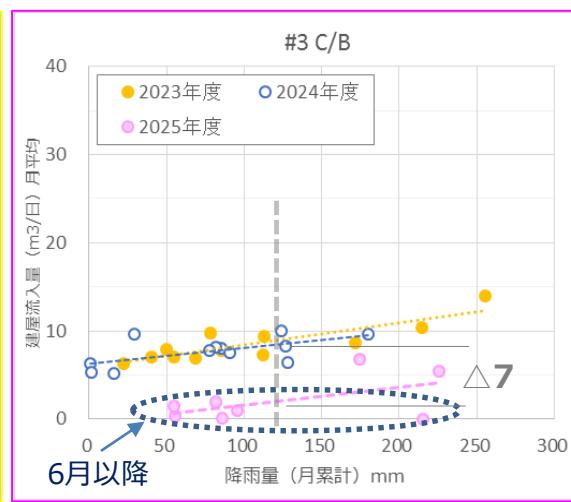
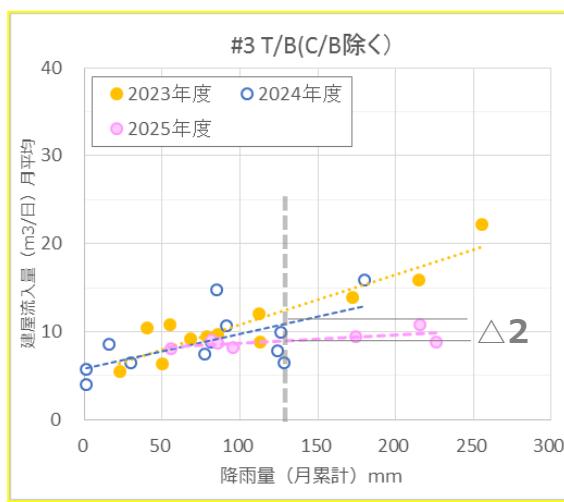
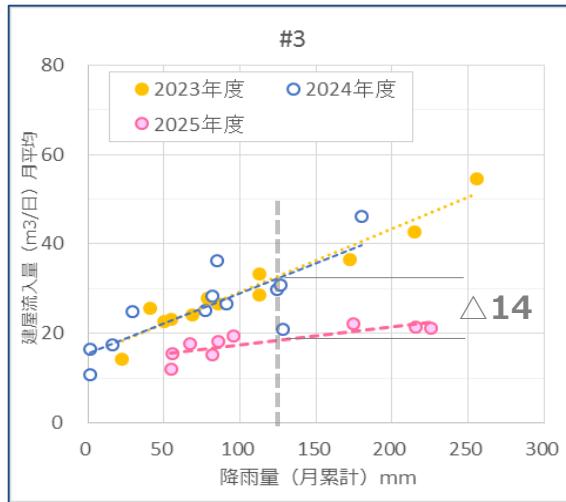


- 各号機毎の建屋流入量は、公表値 (週報値) とは試算に用いた計器が異なるため各建屋の合計値と公表値は合致しない状況である。

グラフデータ : ~2025/12/31迄
※年度、年平均値は、雨補正なし

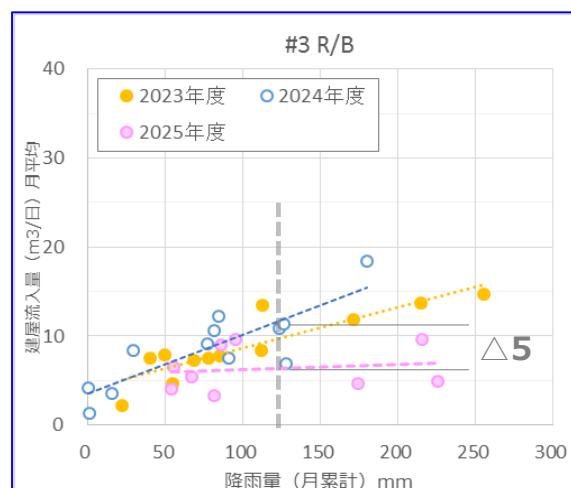
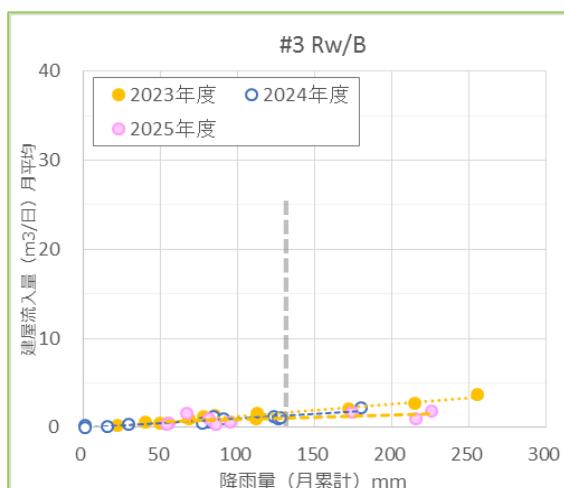
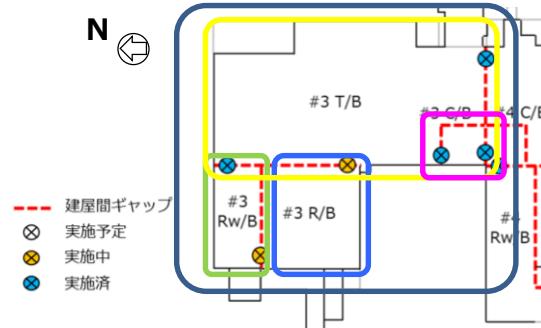
3-4 3号機建屋間ギャップ端部止水の効果について

- 3号機の建屋流入量は、ギャップ端部止水の進捗に伴い約10m³/日程度の低下が確認されている。
- T/B : 数m³/日程度の低減。2025年度は、降雨による増加が殆どない状況 ※比較は、2024年度と2025年度
- C/B : 約5m³/日程度の低減。6月以降のデータでは、流入量が数m³/日である。(ギャップ完了)
- R_w/B : 殆ど変化無し。ギャップ止水を実施中のため、今後、データを確認していく
- R/B : 短時間の強い降雨による一時的な流入量増加があるものの、約5m³/日程度の低減



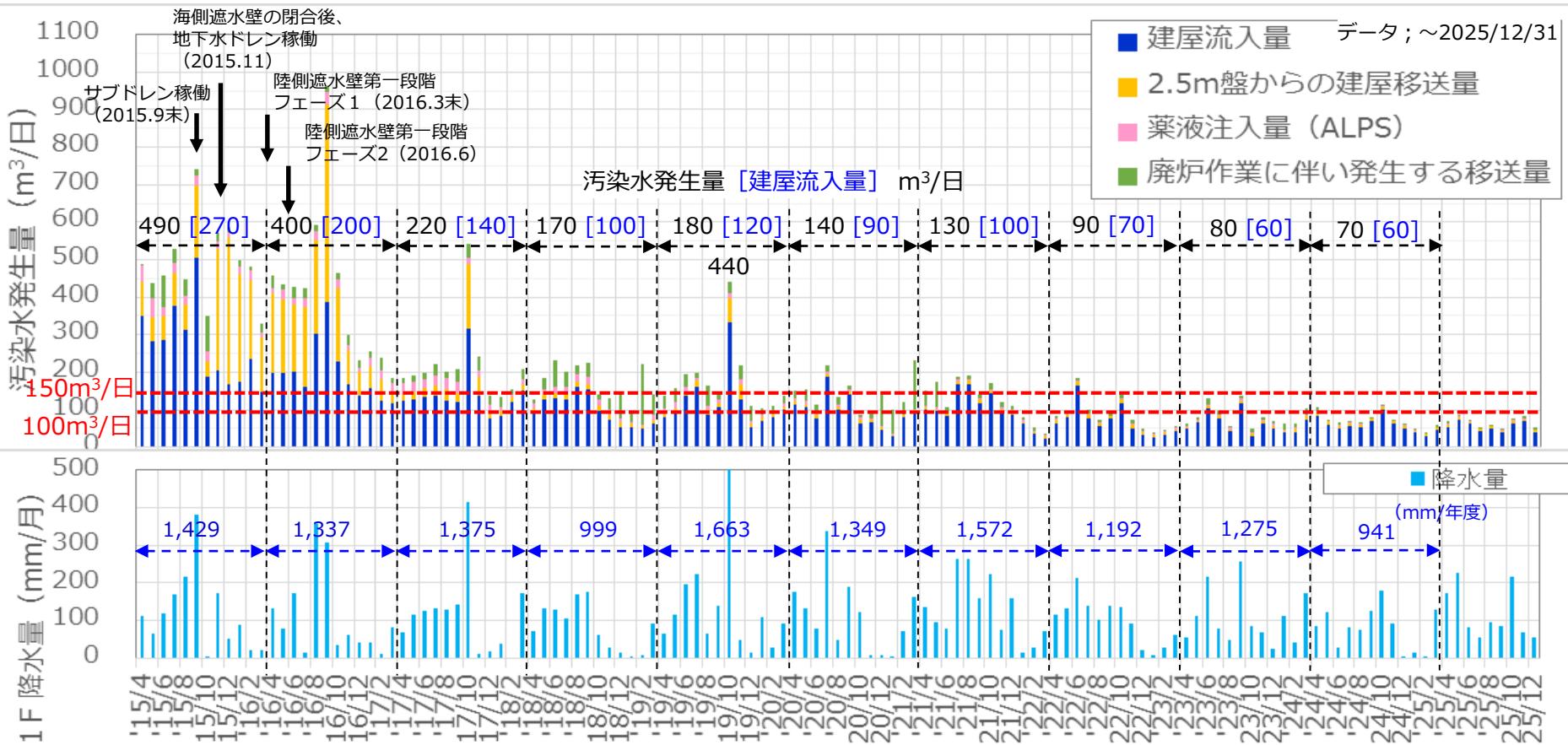
【降雨量】
 2023年度 : 1,275mm (平年雨量)
 2024年度 : 941mm (1,470mm)
 2025年度 : 1,053mm (1,382mm)
 [4/1~12/31迄]

<平年雨量の月平均> 1,470 / 12ヶ月 : 123mm



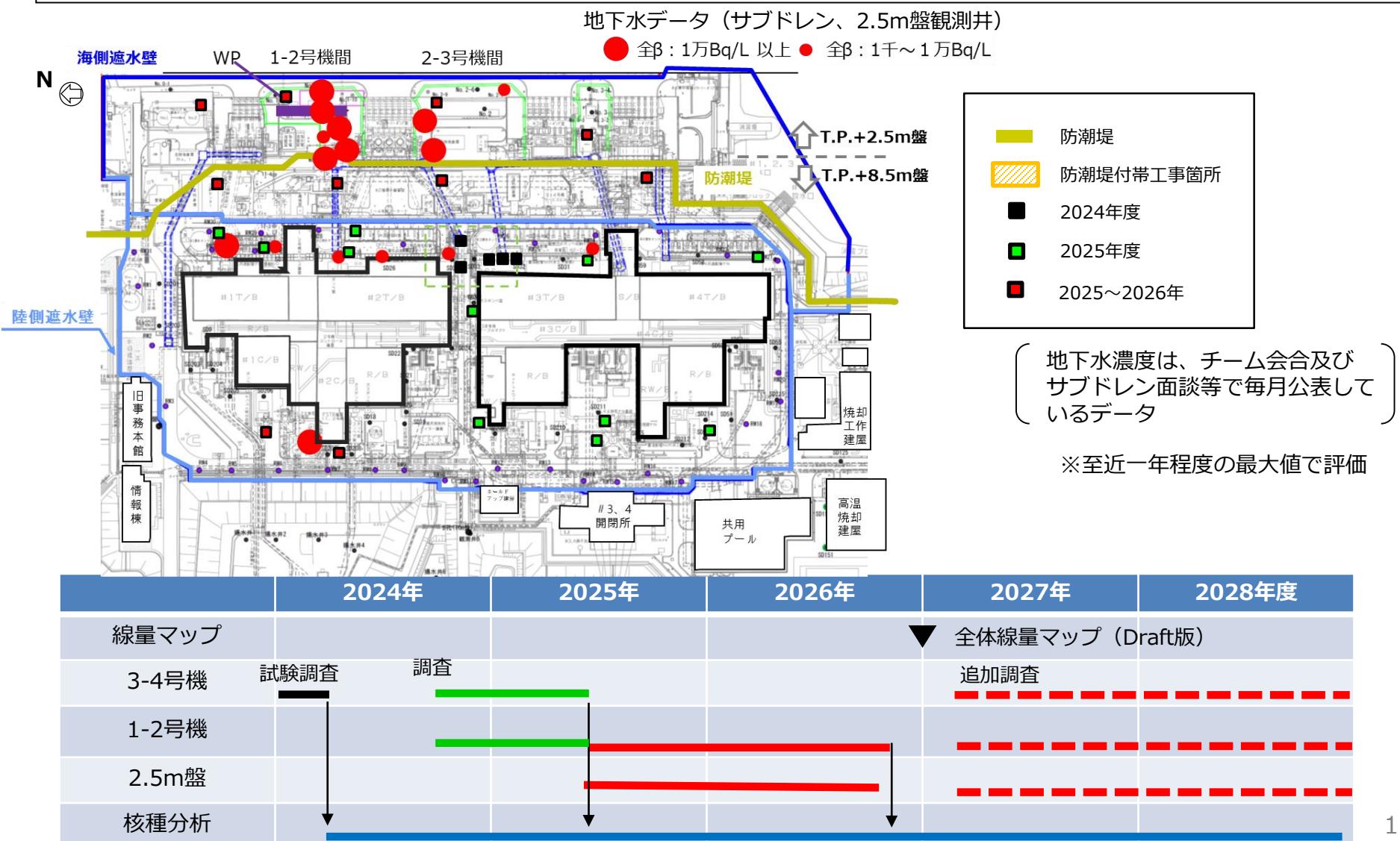
3-5 汚染水発生量の推移

- 2025年度の汚染水発生量はギャップ端部止水等の継続的な対策により、12月末現在の状況で、年度末において約60m³/日、平年雨量相当で約70m³/日と想定され、今後の各設備の運転状況にもよるが、2025年度に"約50~70m³/日程度に抑制する"は70m³/日程度で達成出来る見通しである。
- 今後もギャップ端部止水等で更なる汚染水発生量の抑制を目標に対策を継続していく。（1号カバー効果：2026年度～）



4-1 地盤線量調査の現況について

■ 地中内線量測定については、今後の汚染水対策の工法選定や、廃棄物発生量の計画に資するデータ取得の目的に、段階的に1-4号建屋付近から調査を継続しており、2025年～2026年については1/2号機山側（排気筒近傍底部）、TP8.5m盤海側、2.5m盤（比較的地下水濃度が高くない範囲から着手）を実施する予定



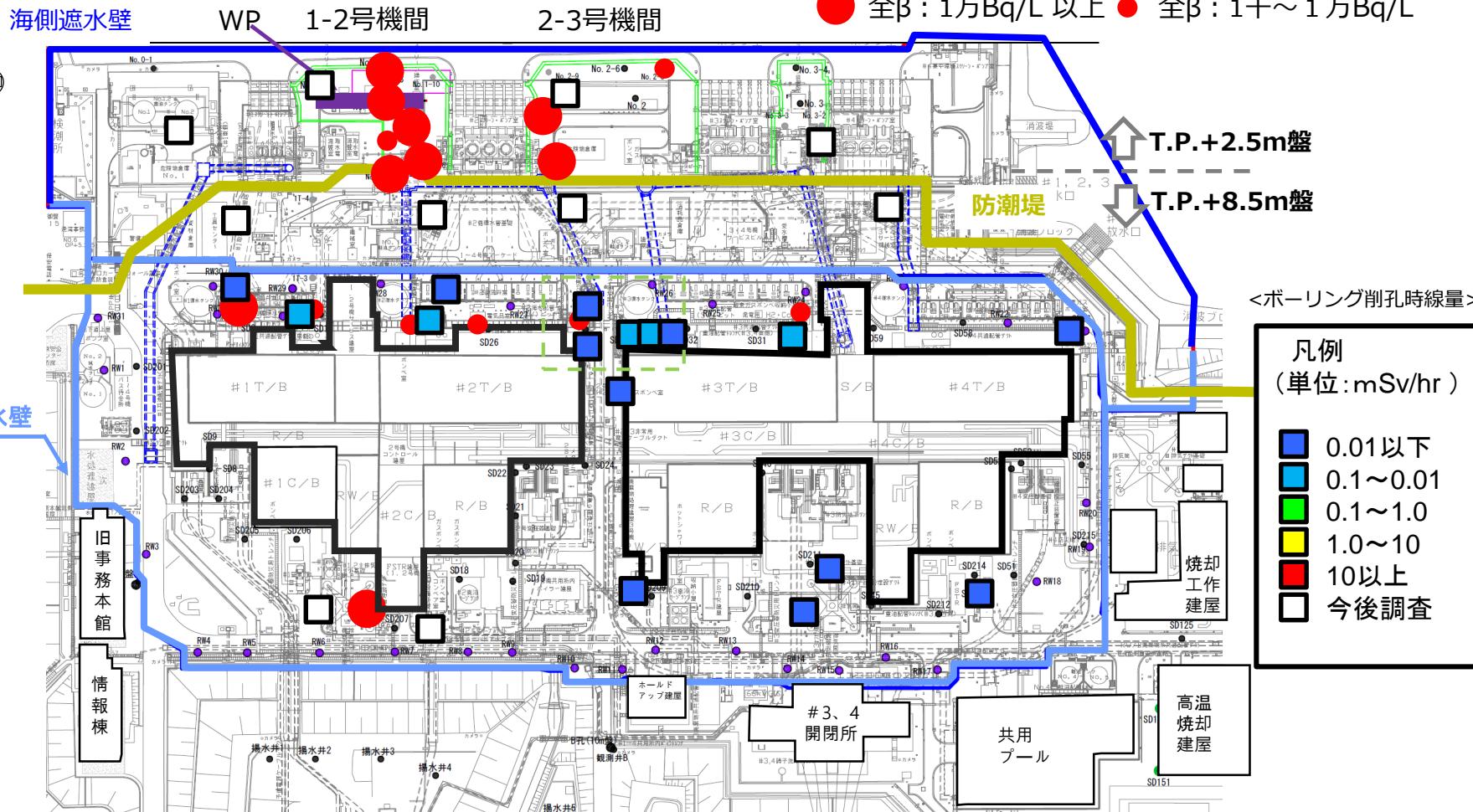
4-2.1 線量マップ (浅部GL1-3m : TP8~6m) γ : ボーリング削孔時

廃炉・汚染水・処理水対策
チーム会合／事務局会議
第145回資料再掲

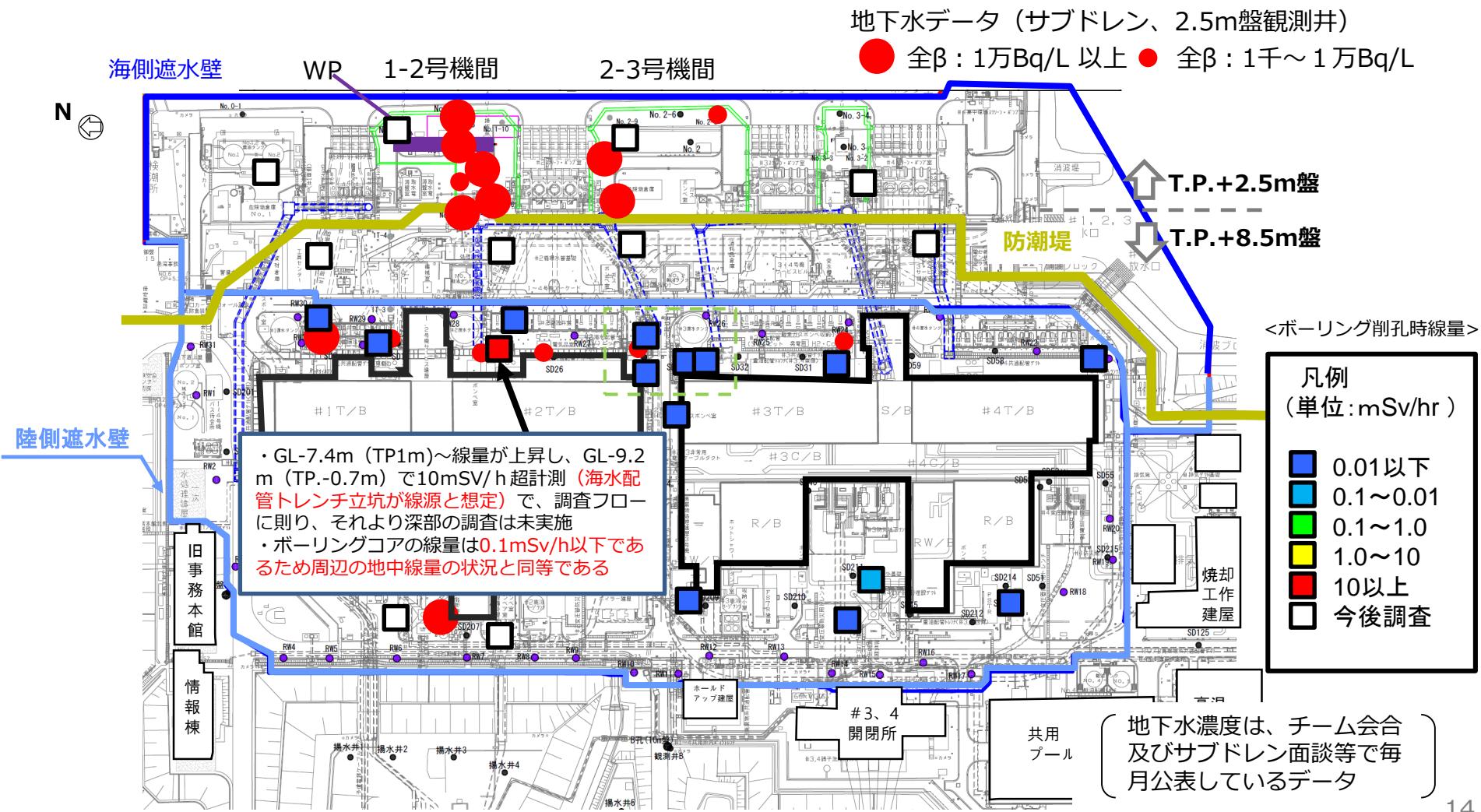
■ 地表から1-3mにおいては現時点では線量は認められない。フォールアウトの影響は1m程度（試掘調査範囲）であり、現時点では8.5m盤の建屋周辺の浅部の線量は低い状況

地下水データ（サブドレン、2.5m盤観測井）

● 全 β : 1万Bq/L 以上 ● 全 β : 1千~1万Bq/L

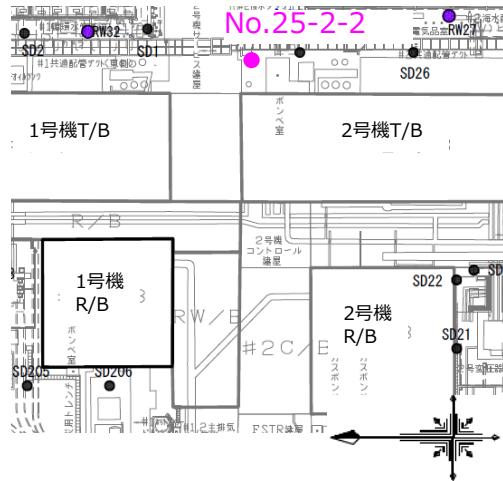
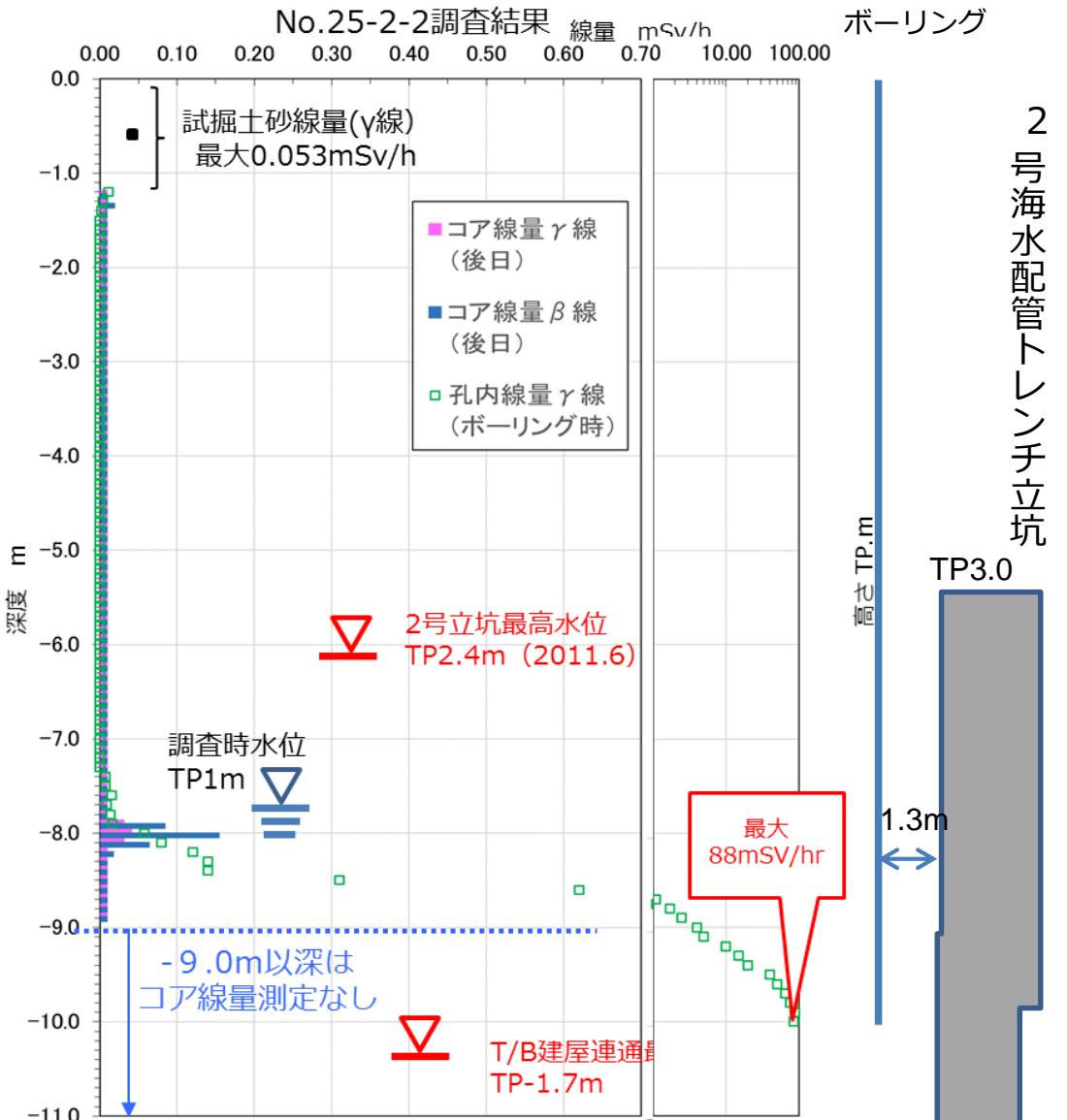


- ボーリングの孔内線量は、地表から6-8mにおいては2号海水配管トレーニング立坑近傍のみにおいて、高線量の γ が確認された。一方、ボーリングコアの表面線量は0.1mSv/h以下であり、周辺の地中線量と同程度であった。（詳細は、P15）
 - 現時点で、上記以外の8.5m盤の建屋周辺の深部の線量（ボーリング孔内）は構造物周辺以外は低い状況。



4-2.3 地中線量調査結果 Bor No.25-2-2

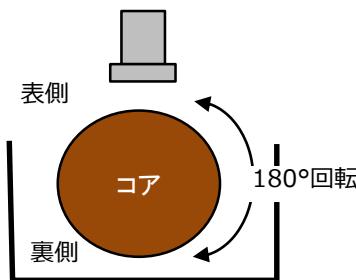
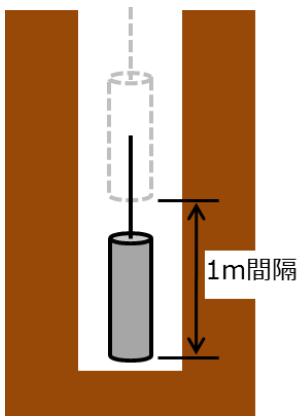
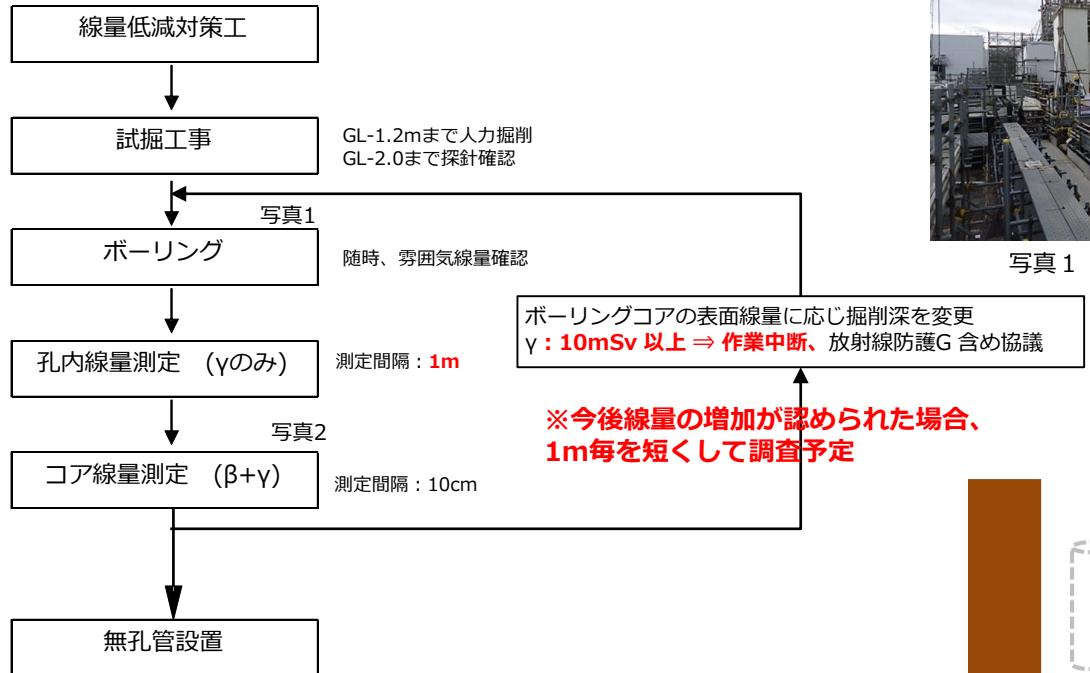
- ボーリング孔内の線量： γ 線は最大で88mSv/hrである、2号機海水配管トレーンチ立坑の影響と想定
- 採取したコア表面線量： γ 線は最大で0.042mSv/hr、 β 線は最大で0.155mSv/hr



海水配管トレーンチ構造は参考5-16、17

■ 調査ボーリングは汚染したコアを採取する可能性もあるため、試掘面の表面線量に応じて掘削深を設定。
以後、設定深度毎にコアの測定を行い表面線量に応じて次の掘削深を設定する。

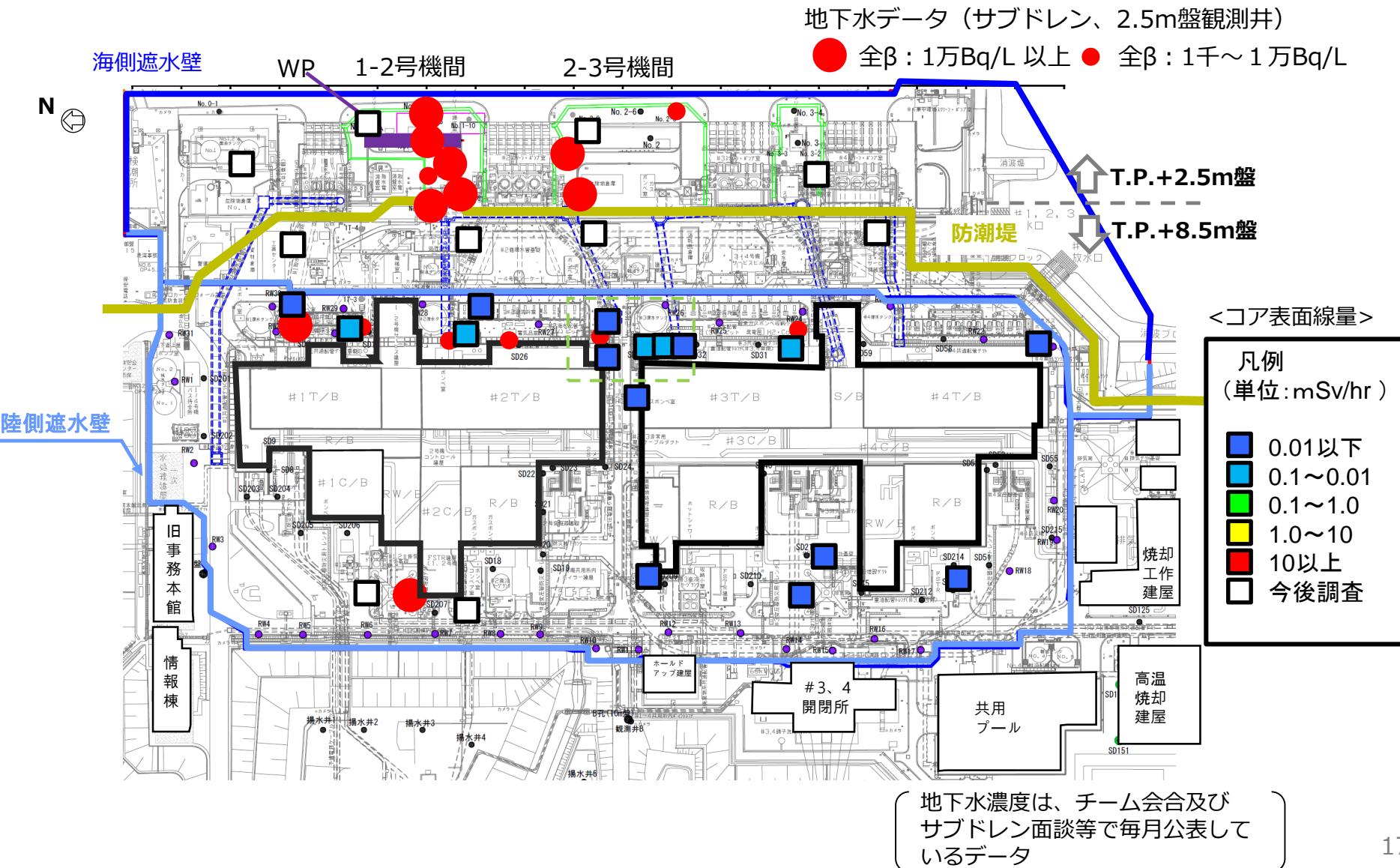
施工フロー



コアの表面線量測定は、コア箱に入れられた状態で表裏を10cm間隔で測定。
測定値は2点（表裏）の最大値を採用

4-2.4 線量マップ（浅部GL1-3m：TP8～6m） β ：ボーリングコア

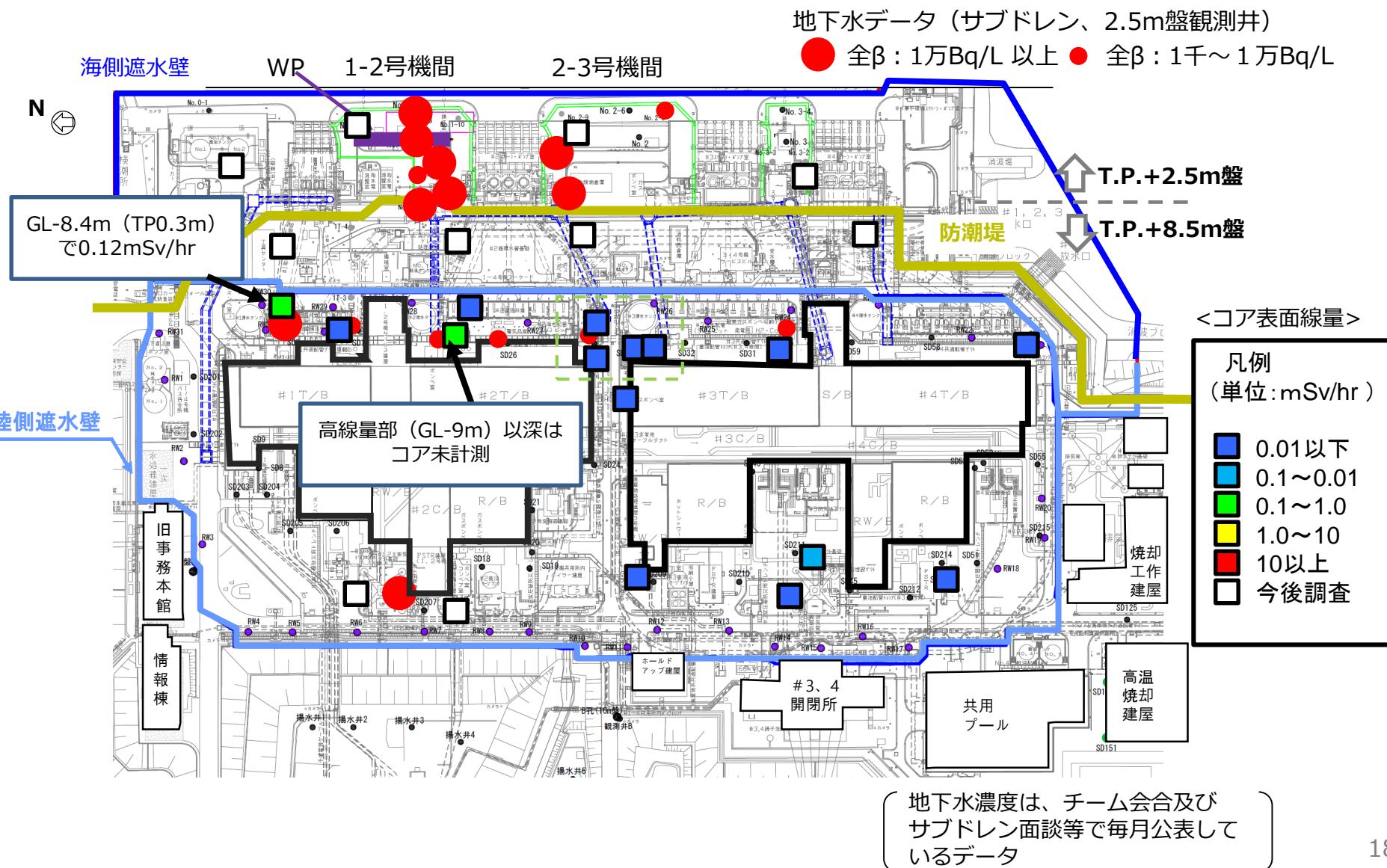
■ 地表から1–3mにおいては現時点では線量は認められない。「と全βは同様な分布



4-2.5 線量マップ (深部GL6-8m: TP2~0m) β : ボーリングコア

廃炉・汚染水・処理水対策 チーム会合／事務局会議 第145回資料再掲

- 地表から6-8mにおいては、2号海水配管トレーニング坑近傍及び1号機東側（全β濃度が高い地下水が確認されている近傍）で0.1mSvを超えるβ線が確認された。



【参考1】 地中温度分布

■ 地中温度分布図

(1) 1号機北側（北側から望む）

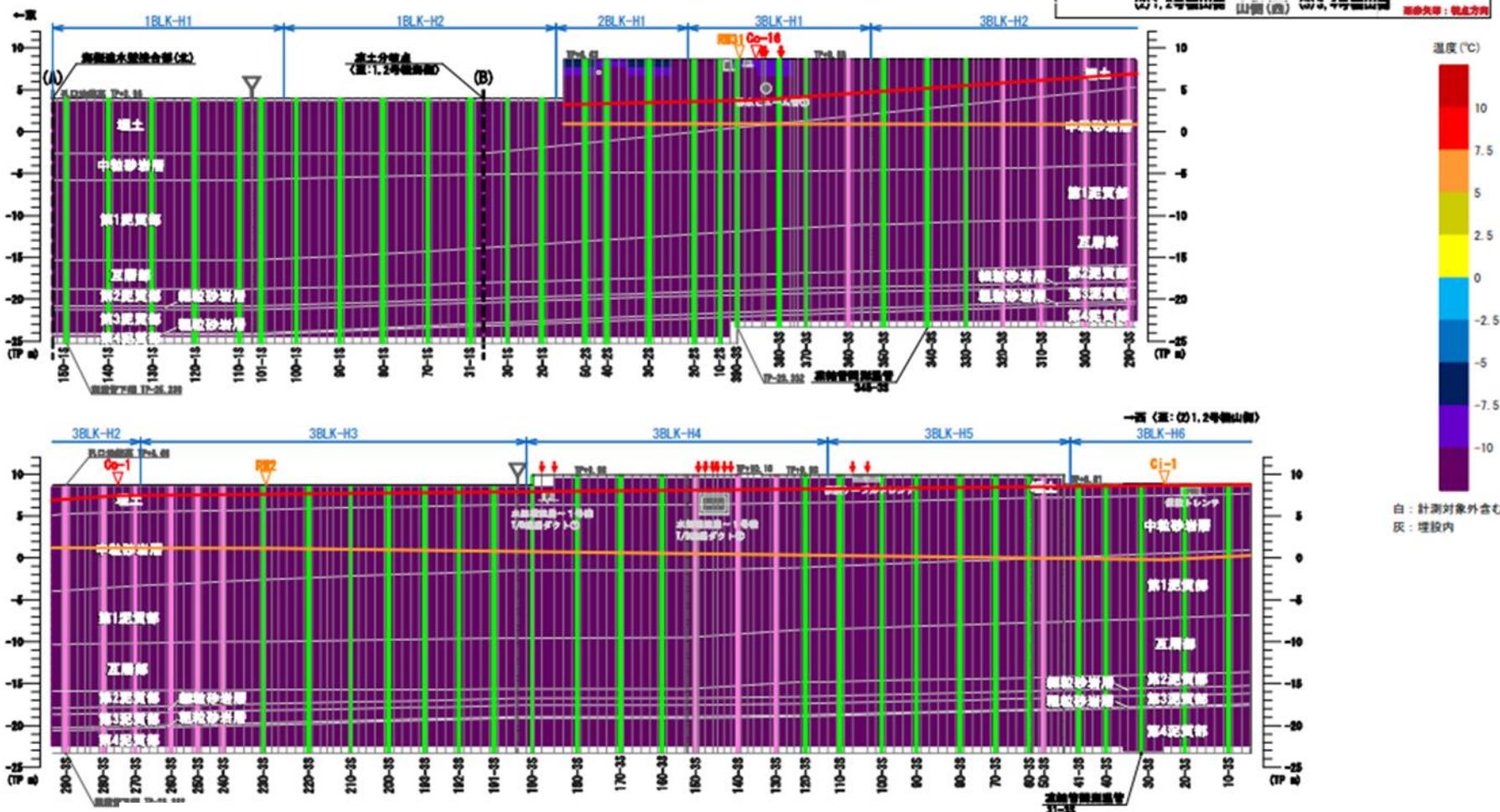
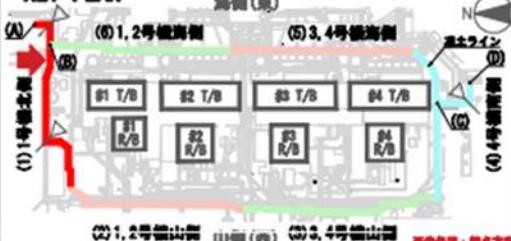
(温度は1/13 7:00時点のデータ)

※2026/1/9の凍土壁設備の一時全停止（4時間程度）したが、地中温度に変化は確認されていない

凡例

- 測温管（凍土ライン外側）
- 測温管（凍土ライン内側）
- 板状部凍結管
- 凍土壁外側水位
- 凍土壁内側水位
- リチャージウェル
- CI（中粒砂岩層・内側）
- Co（中粒砂岩層・外側）
- 本土折れ点
- ブライン錆錆範囲
- ブライン停止期間

KEY PLAN



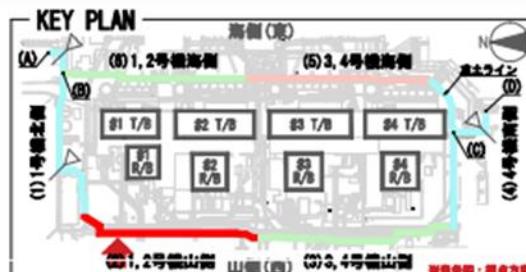
■ 地中温度分布図

(2) 1, 2号機山側（西側から望む）

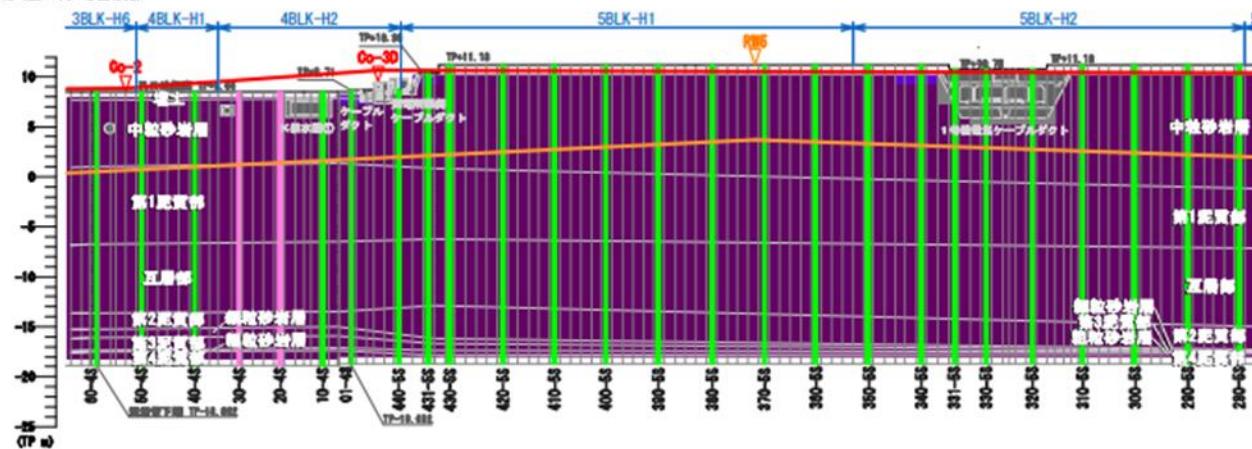
(温度は1/13 7:00時点のデータ)

※2026/1/9の凍土壁設備の一時全停止（4時間程度）したが、地中温度に変化は確認されていない

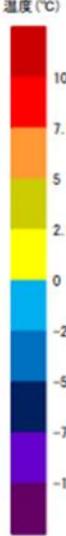
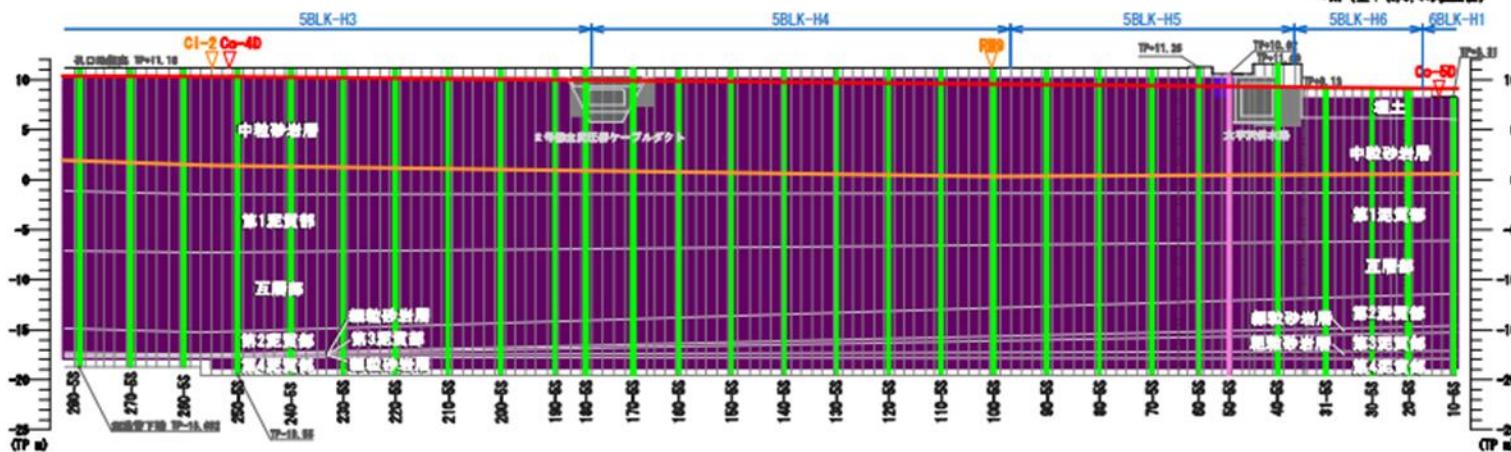
凡 例	
■ : 地温管（凍土ライン外側）	▽ : リチヤージウェル
■ : 地温管（凍土ライン内側）	▽ : CI (中粒砂岩層・内側)
↓ : 検査部連絡管	▽ : Co (中粒砂岩層・外側)
■ : 凍土壁外側水位	▽ : 冻土折れ点
■ : 凍土壁内側水位	↔ : ブライン移動範囲
	↔ : ブライン停止範囲



→北 (東: (1)号機北側)



温度 (°C)

白：計測対象外含む
灰：埋設内

■ 地中温度分布図

(3) 3, 4号機山側（西側から望む）

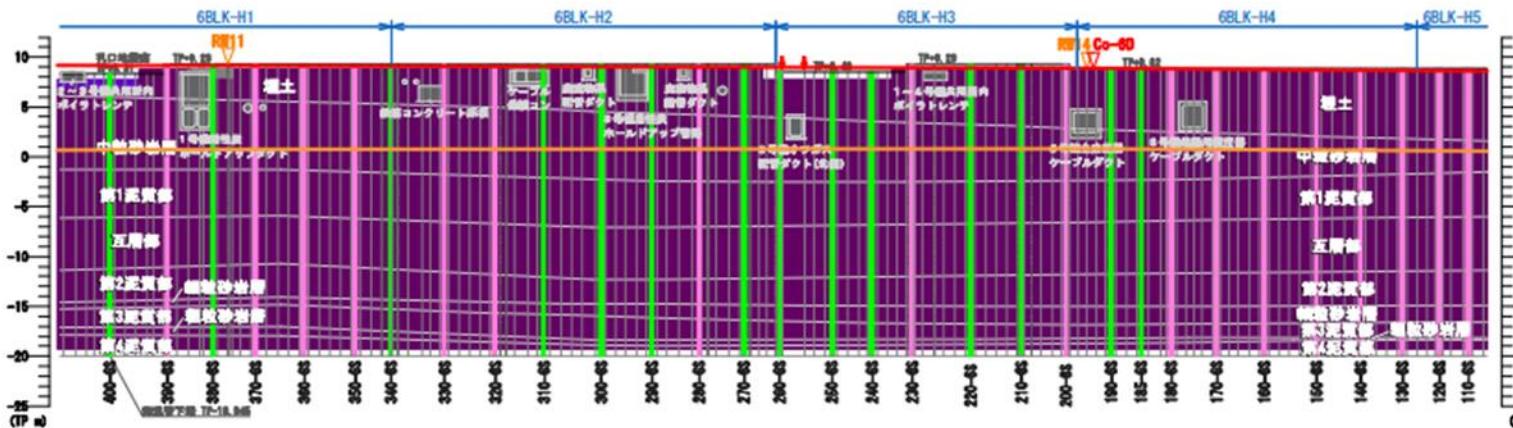
(温度は1/13 7:00時点のデータ)

※2026/1/9の凍土壁設備の一時全停止（4時間程度）したが、地中温度に変化は確認されていない

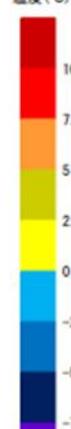
凡 例	
■：測温管（凍土ライン外側）	▽：リチャージウェル
■：測温管（凍土ライン内側）	▽：CI（中継砂岩層・内側）
↓：被覆部連続管	▽：Co（中継砂岩層・外側）
■：凍土壁外側水位	▽：冰土折れ点
■：凍土壁内側水位	↔：ブライン接着範囲
	↔：ブライン停止範囲



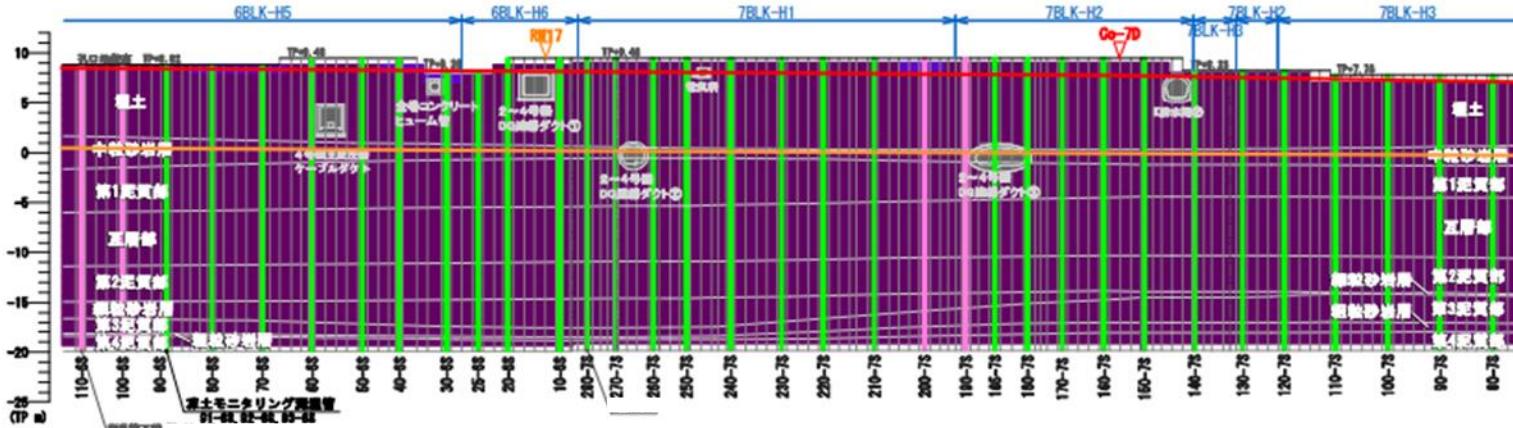
一北（東：(2)1,2号機山側）



温度 (°C)



一南（西：(4)4号機南側）



白：計測対象外含む
灰：埋設内

■ 地中温度分布図

(4) 4号機南側（南側から望む）

(温度は1/13 7:00時点のデータ)

※2026/1/9の凍土壁設備の一時全停止（4時間程度）したが、地中温度に変化は確認されていない

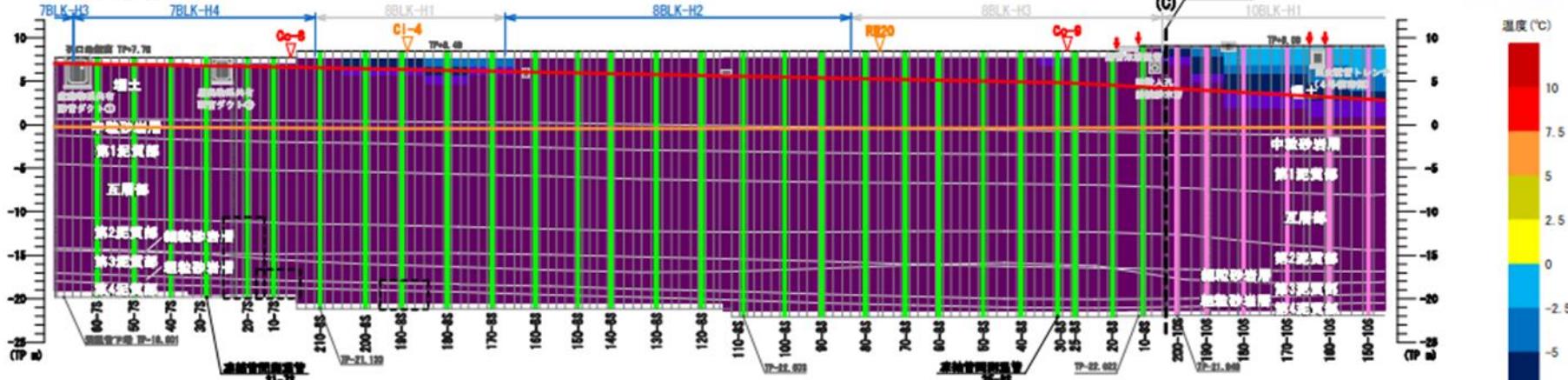
凡例

- : 温度管（凍土ライン外側）
- : 温度管（凍土ライン内側）
- ↓ : 横河部連管
- : 凍土壁外側水位
- : 凍土壁内側水位
- ▽ : R/W (リチャージウェル)
- ▽ : CI (中乾砂岩層・内側)
- ▽ : Co (中乾砂岩層・外側)
- ▽ : 地下鉄道
- ↔ : ブライン停機範囲
- ↔ : ブライン停止範囲

KEY PLAN



一覧 (3) 3, 4号機山側



■ 地中温度分布図

(5) 3, 4号機海側（西側：内側から望む）

（温度は1/13 7:00時点のデータ）

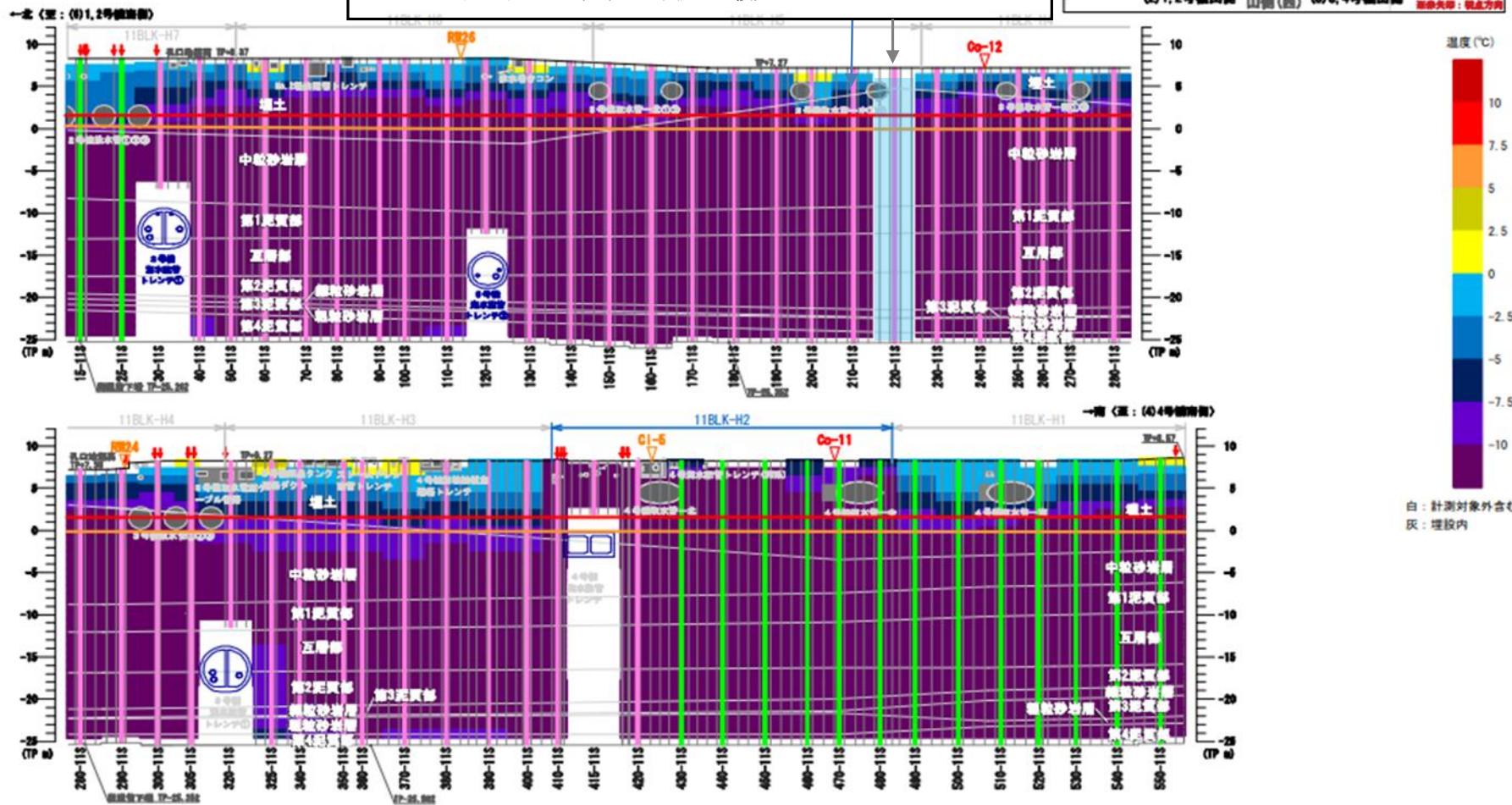
凡例

- 測温管（凍土ライン外側）
- 測温管（凍土ライン内側）
- ↓ : 拡張部凍結管
- : 凍土壁外側水位
- : 凍土壁内側水位
- ▽ : 雨（リチャージウェル）
- ▽ : CI（中乾砂岩層・内側）
- ▽ : Co（中乾砂岩層・外側）
- ▽ : 凍土斜れ直
- ↔ : ブライン凍結範囲
- ↔ : ブライン停止範囲

KEY PLAN



※測温管（210-11S）データは、2025/12/18より欠測。測温管のケーブルが引き抜けない事象から、従来発生した事象と同様に凍結管内部でケーブルが凍結により固着していると想定、今後、内部の調査を実施し、復旧していく。



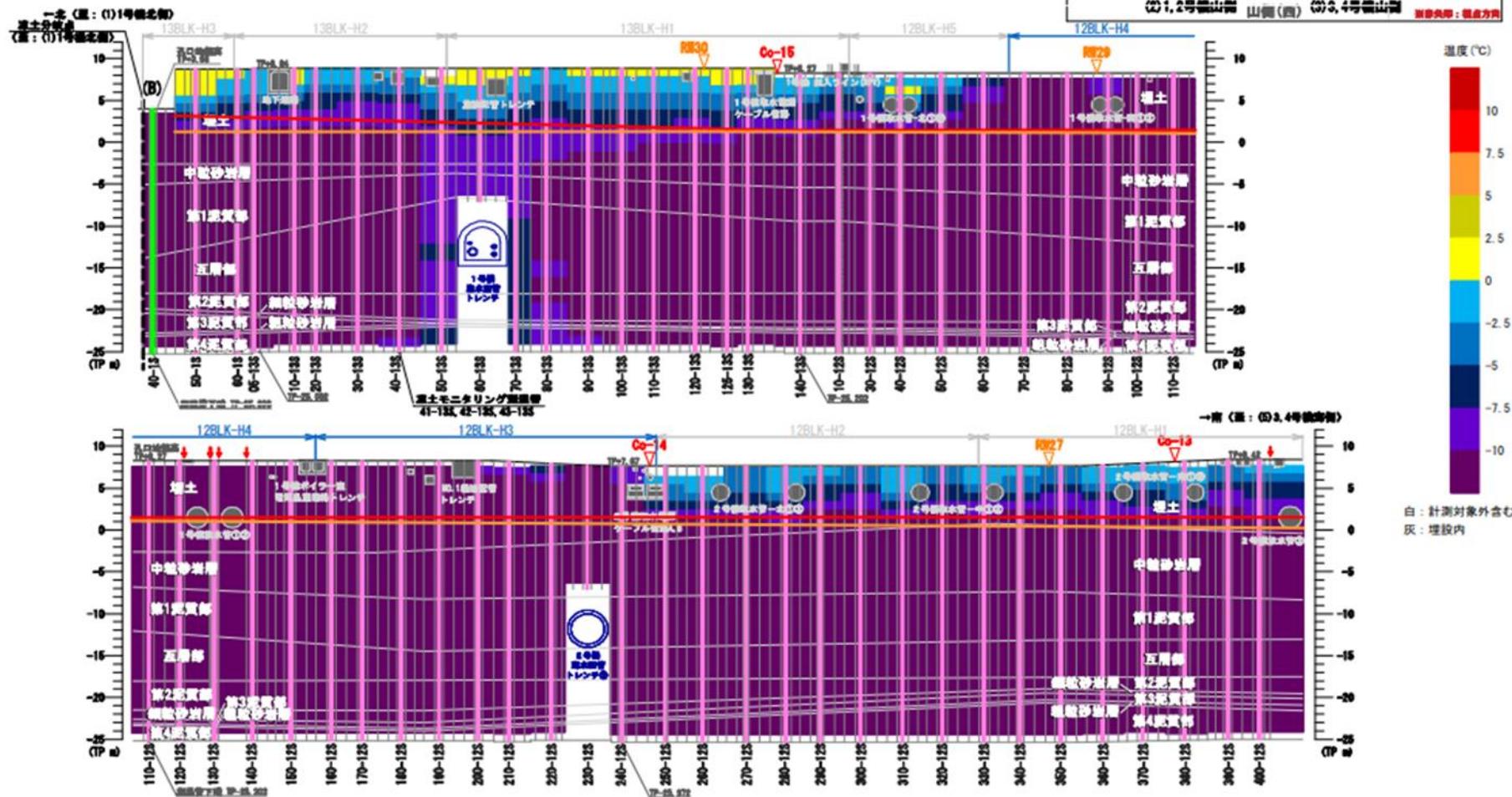
※2026/1/9の凍土壁設備の一時全停止（4時間程度）したが、地中温度に変化は確認されていない

■ 地中温度分布図

(6) 1, 2号機海側 (西側: 内側から望む)

(温度は1/13 7:00時点のデータ)

※2026/1/9の凍土壁設備の一時全停止（4時間程度）したが、地中温度に変化は確認されていない



- 維持管理運転*対象全49ヘッダー管（北回り1系統25ヘッダー、南回り2系統24ヘッダー）のうち16ヘッダー管（北側0、東側12、南側4、西側0）にてブライン停止中。

*陸側遮水壁の必要以上の凍結膨張を制御するための運転

13BLK-H2 : 間引き運転併用 (2025.1.10~)

1系統 (北回り) 25ヘッダー

維持管理運転全面展開

-凡 例-

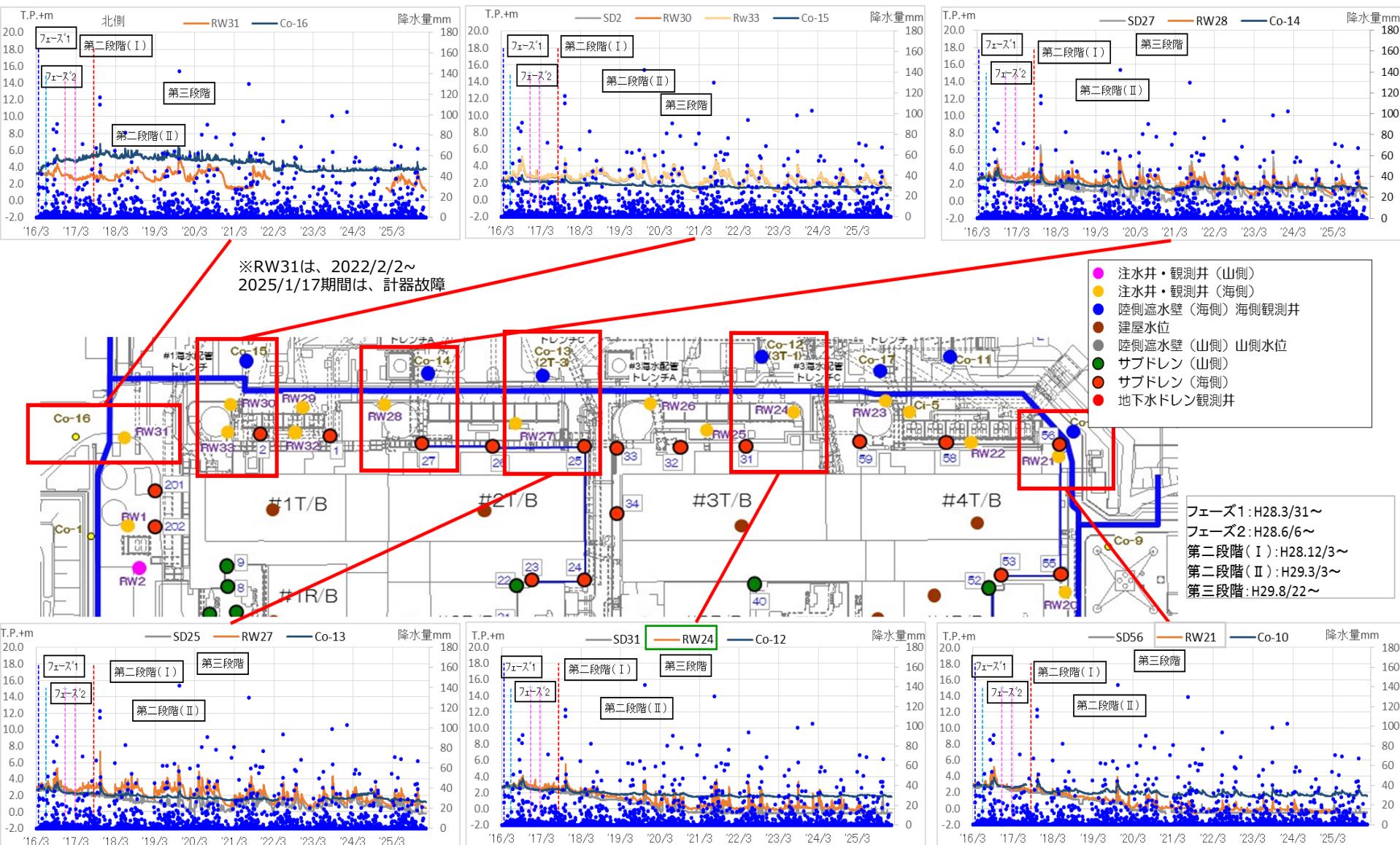
- : ブライン停止中の区間 (凍結管単位を含む)
- : ブライン循環運転中の区間

2系統 (南回り) 24ヘッダー

【参考 2】地下水位・水頭の状況

【参考3-1】地下水位・水頭状況（中粒砂岩層 海側）

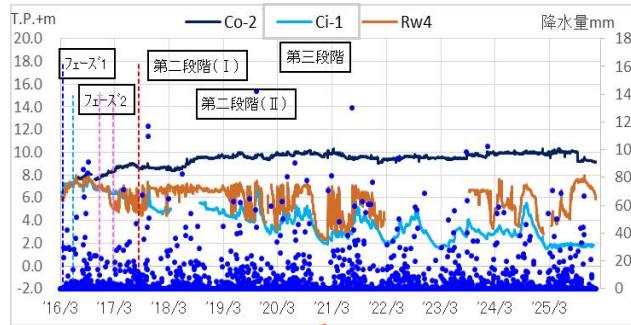
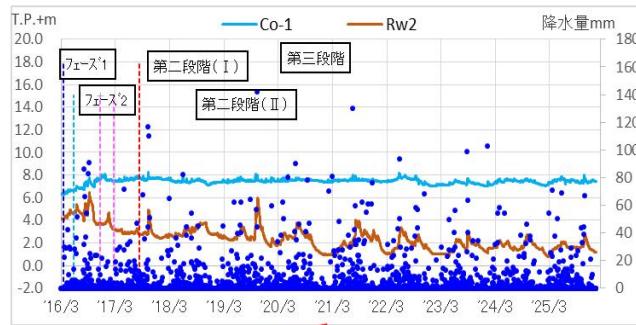
TEPCO



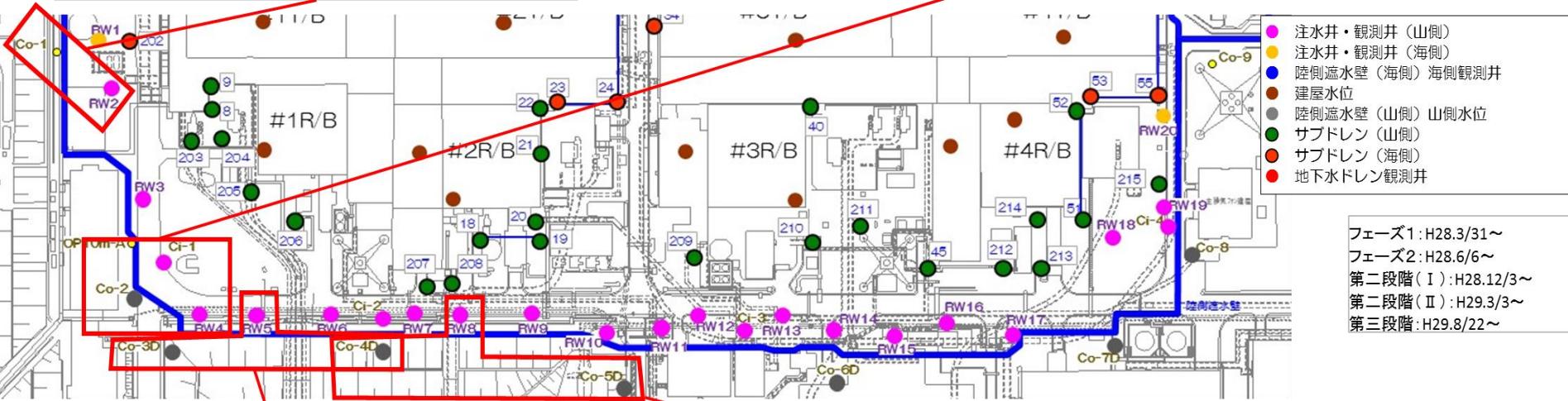
※Co-13は、2022/4/25～2023/6/26の期間は、計器故障

データ ; ~2026/1/17

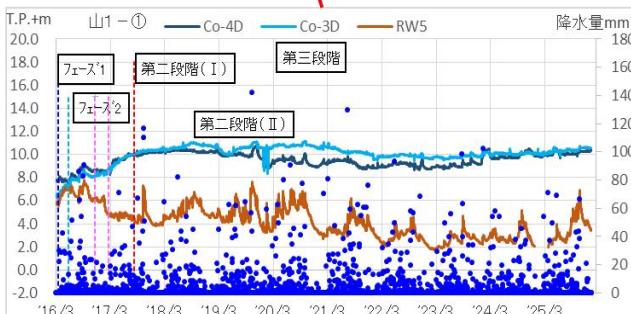
【参考3-2】地下水位・水頭状況 (中粒砂岩層 山側①)



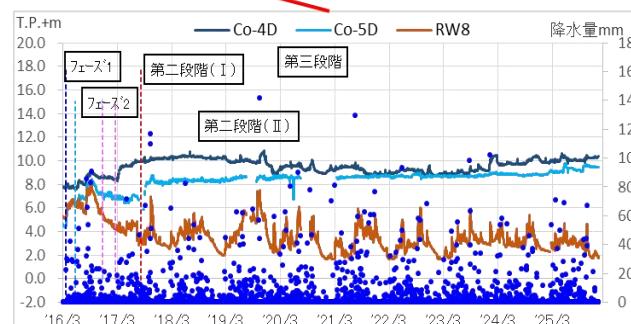
※RW4は、2023/3/29～2023/9/20の期間は計器故障
2025/2/3～ 水位計設置位置変更により欠測
Ci1は、2026/1/8～水位計故障



フェーズ1: H28.3/31～
フェーズ2: H28.6/6～
第二段階(Ⅰ): H28.12/3～
第二段階(Ⅱ): H29.3/3～
第三段階: H29.8/22～

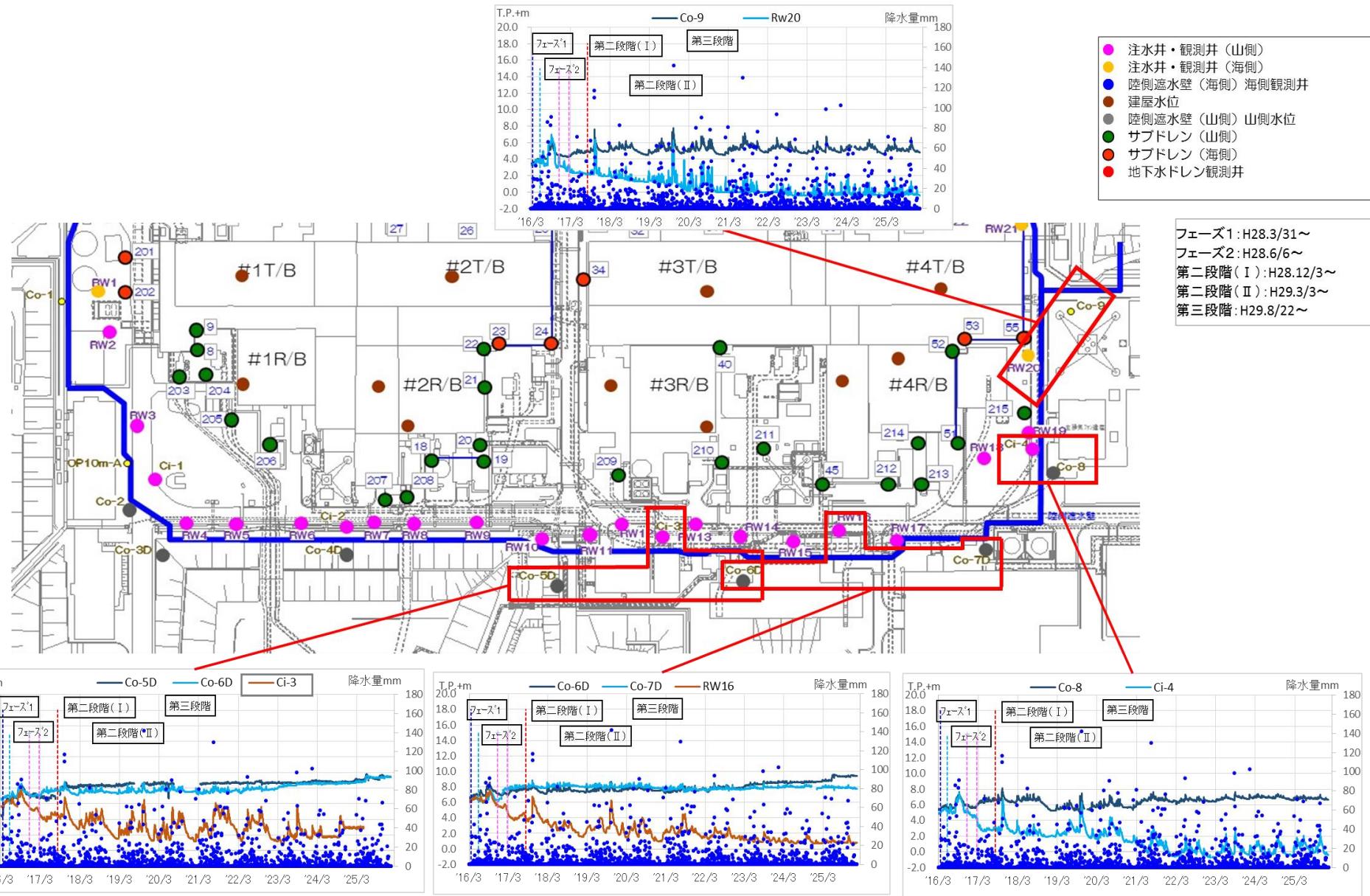


※RW5は、2025/1/4～ 水位計設置位置変更により欠測



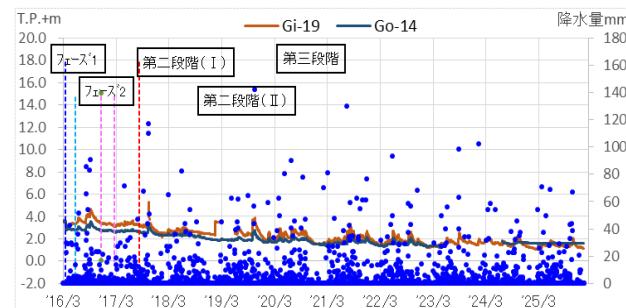
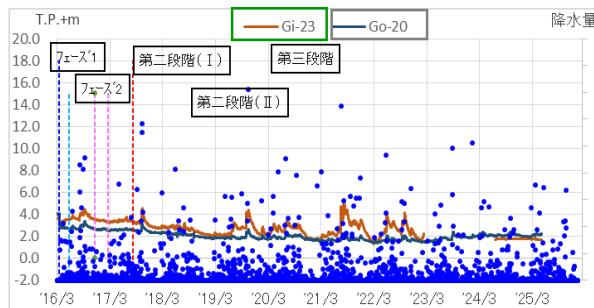
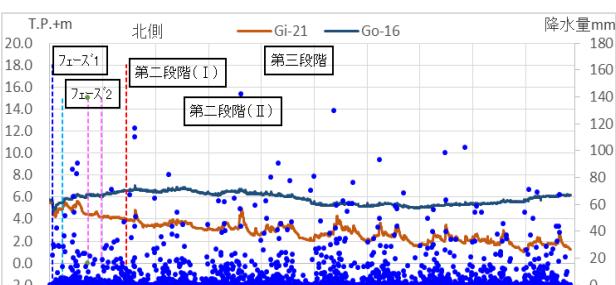
データ；～2026/1/17

【参考3-3】地下水位・水頭状況 (中粒砂岩層 山側②)



【参考3-4】地下水位・水頭状況（互層、細粒・粗粒砂岩層水頭 海側）

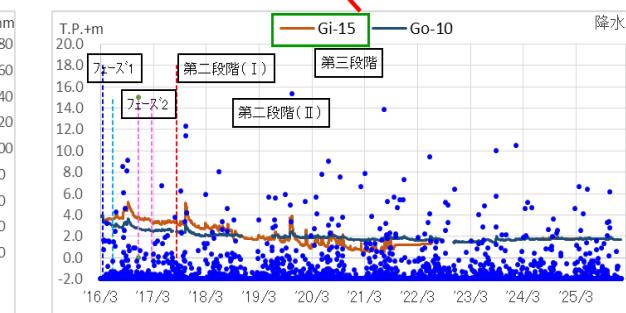
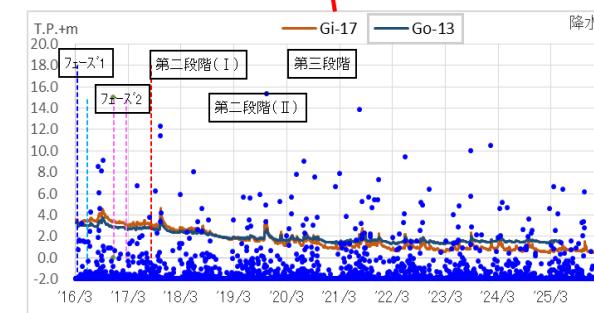
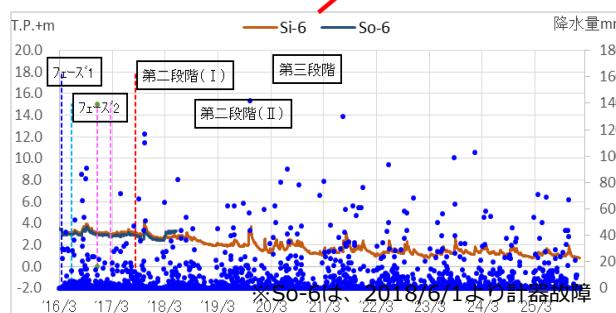
TEPCO



※Gi-23は、2022/2/20～
2024/6/25の期間は、計器故障

海側互層、細粒・粗粒砂岩のグルーピングは、非凍結箇所(各号機海水配管トレーン下部)を除き、各号機に1箇所程度設定

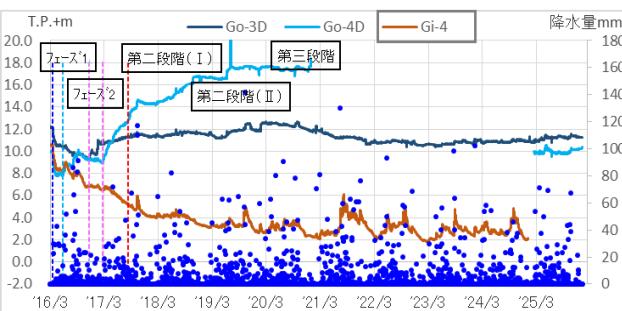
● 互層観測井
● 粗粒・細粒砂岩 観測井



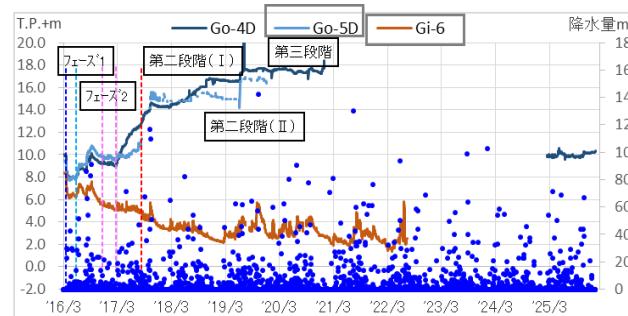
※Gi-15は、2022/7/4～2024/6/25期間は、計器故障

データ ; ~2026/1/17

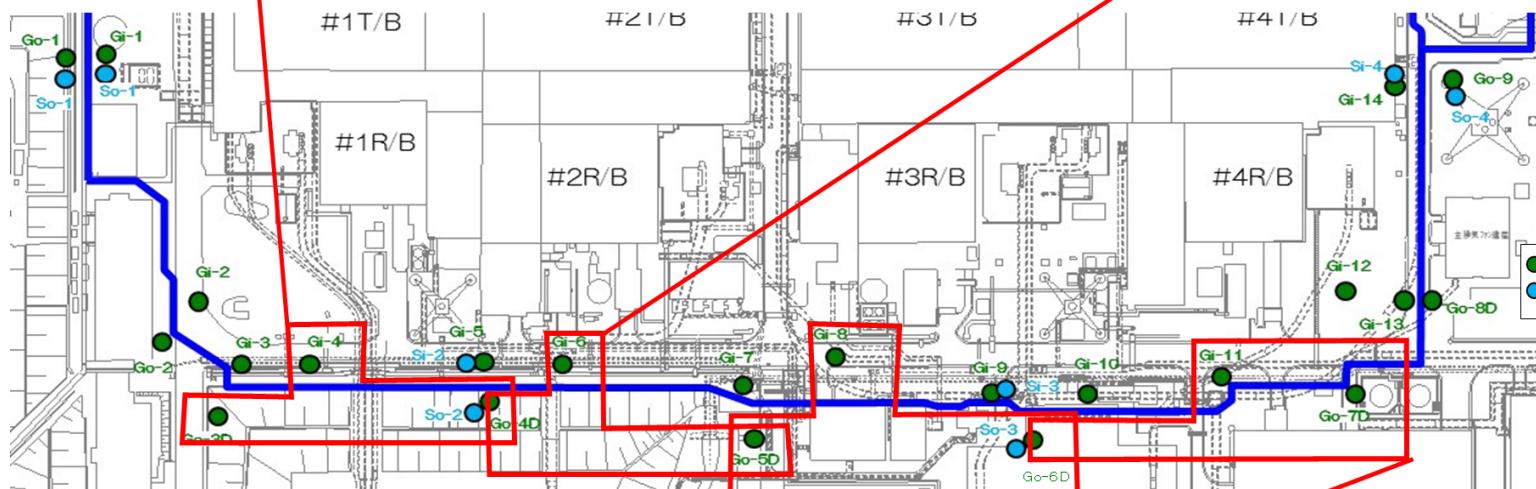
※Go-4Dは、2021/1/11より計器故障



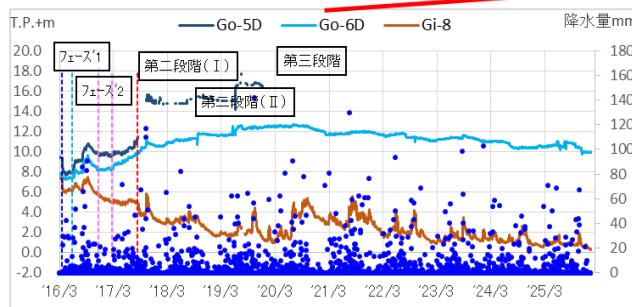
※Go-4Dは、2021/1/11より計器故障



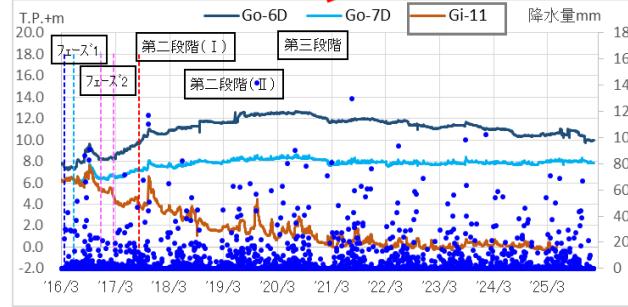
※Gi-6は、2022/7/25より計器故障



フェーズ1 : H28.3/31~
フェーズ2 : H28.6/6~
第二段階(I) : H28.12/3~
第二段階(II) : H29.3/3~
第三段階 : H29.8/22~



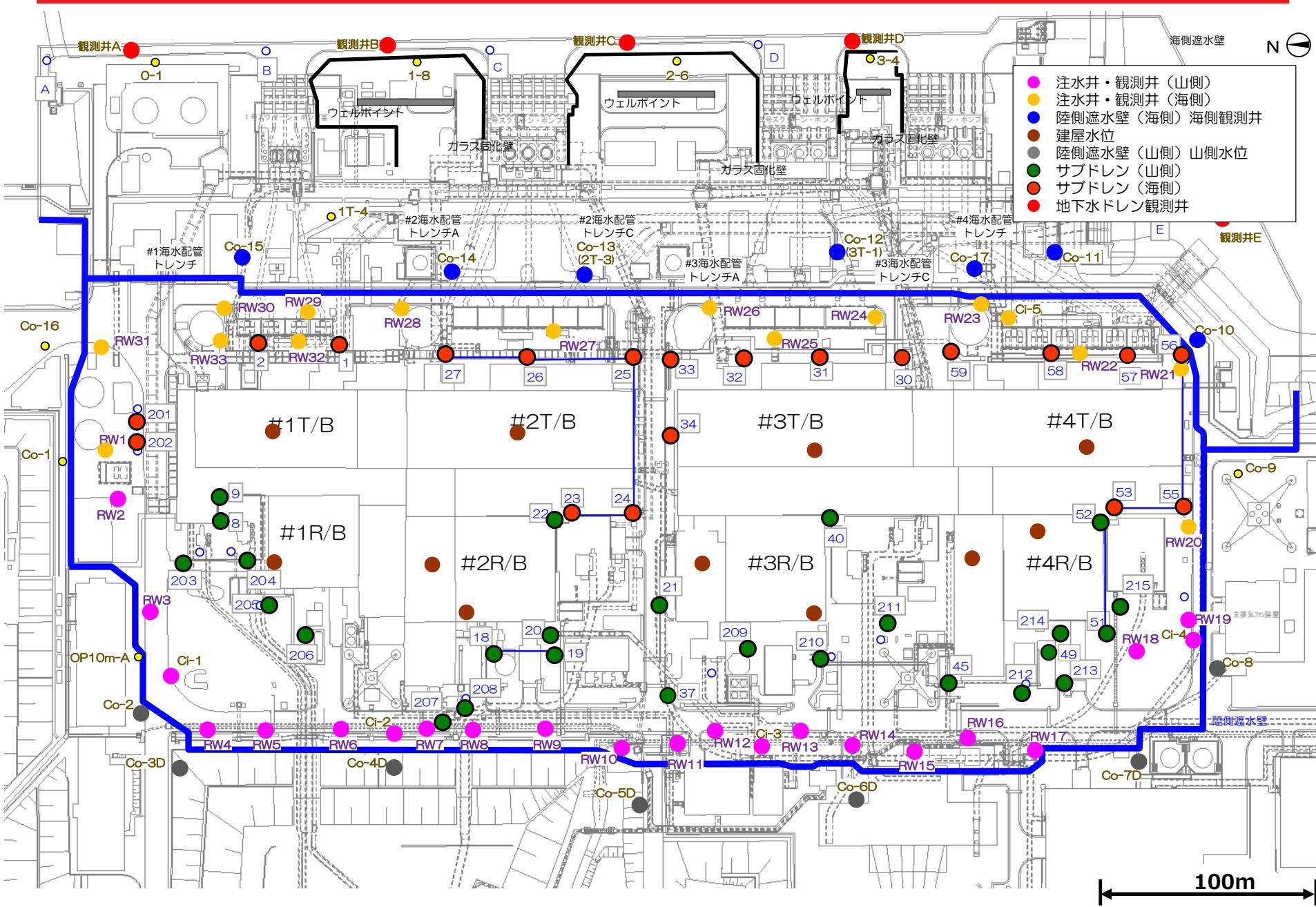
※Go-5Dは、2019/12/16より計器故障



データ ; ~2026/1/17

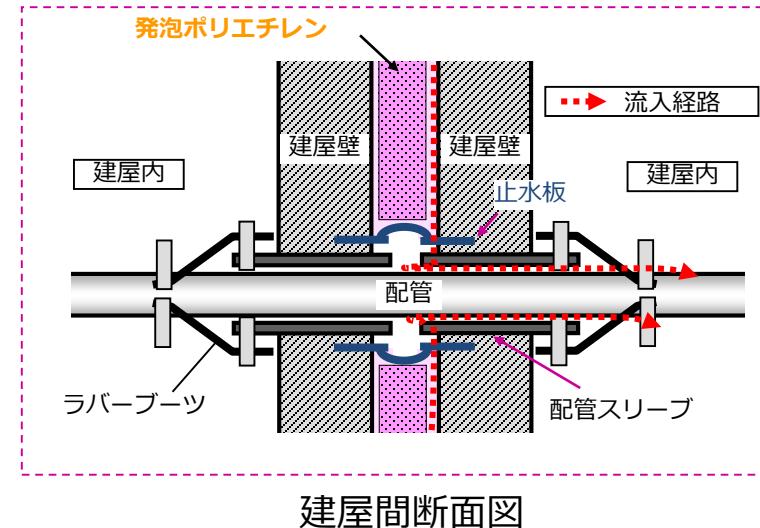
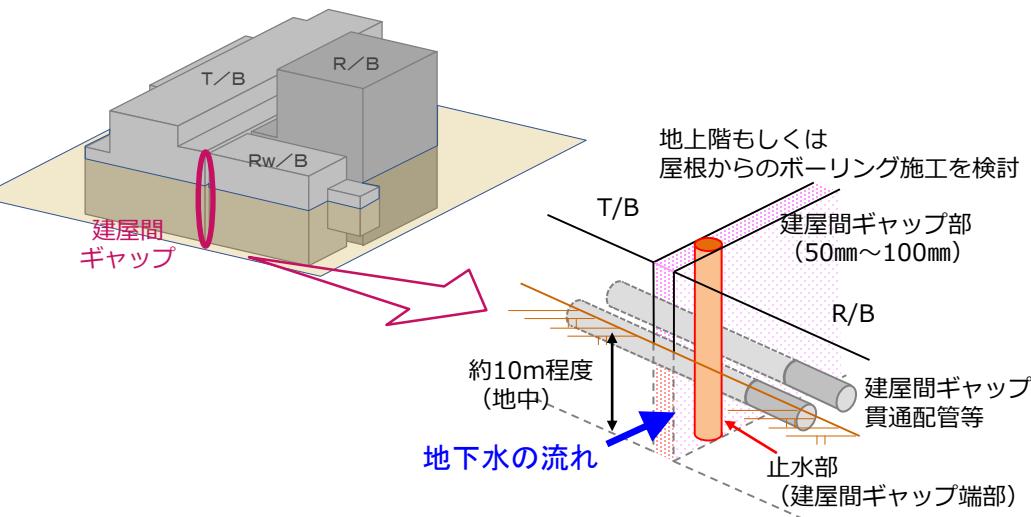
【参考3-6】サブドレン・注水井・地下水位観測井位置図

TEPCO



【参考3】建屋間ギャップ端部止水対策の補足資料

- 各建屋との建屋間には50~100mmのギャップ（隙間）が存在し、発泡ポリエチレンが設置されている。建屋間ギャップには、多数の貫通配管が存在しているため、外壁部から地下水が浸入している可能性が考えられることから、端部に止水部を設置する。
- 建屋間ギャップは、概ね底部に止水板が設置されており、外壁端部の範囲をボーリングで削孔し、削孔箇所にモルタル等で止水部を構築する予定である。
- 建屋間ギャップ端部止水の実績などを踏まえて、中長期的な汚染水対策の進め方など（陸側遮水壁、サブドレン含む）を検討していく予定である。



建屋間ギャップ端部止水イメージ

建屋間ギャップとは？

原子炉建屋周辺の建屋同士を隣接して建設する際に生じる外壁間の50~100mmの隙間の事である。建屋間ギャップ内には、先行建屋外壁に発泡ポリエチレンが設置されており、地下水が地盤側から建屋間ギャップに浸入すると配管等貫通部から建屋内に地下水が流入する可能性が考えられる。



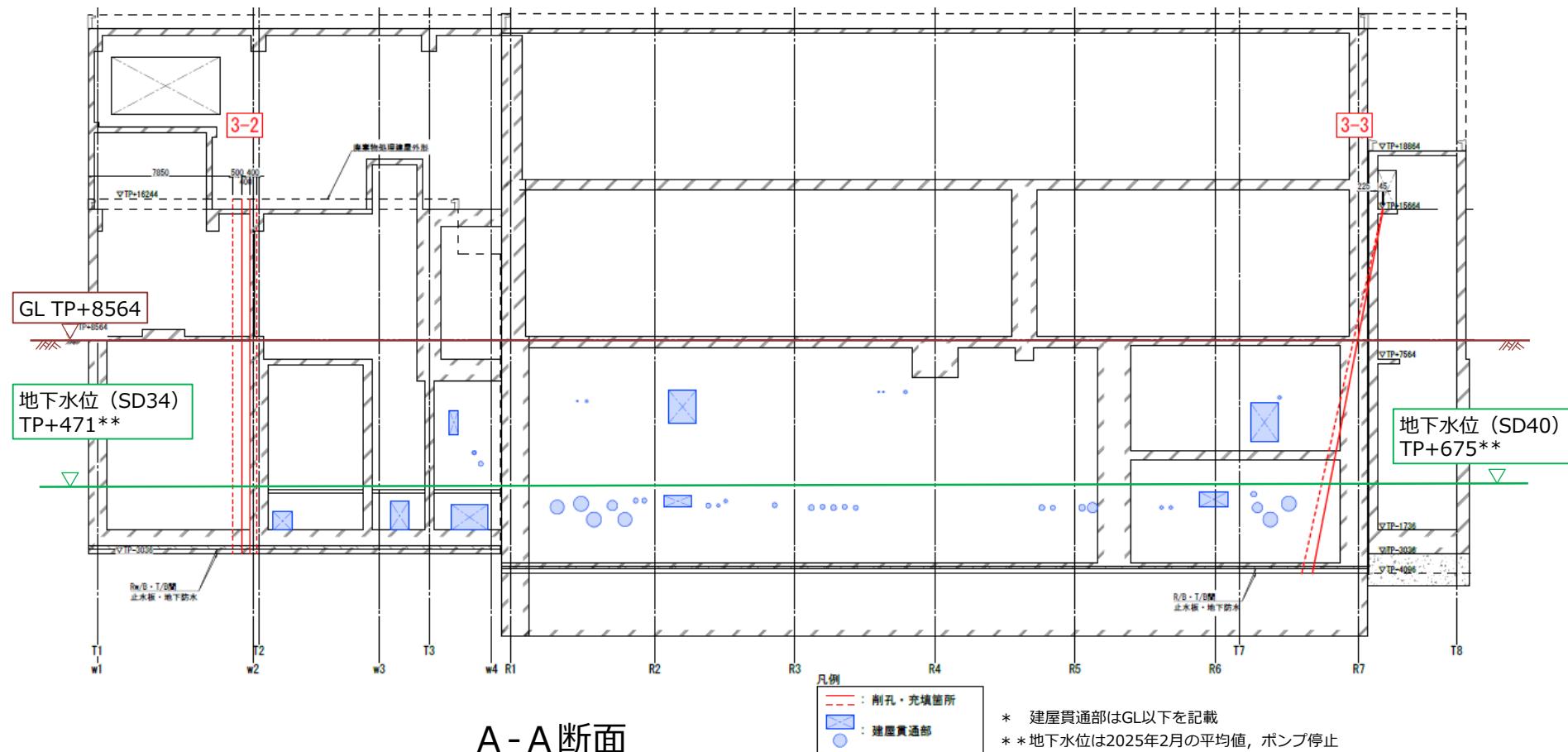
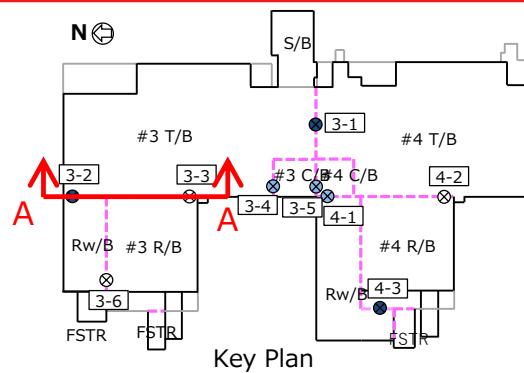
発泡ポリエチレン

【参考4-2】 3号機R/BとT/B間およびRw/BとT/B間貫通部及びギャップ端部止水位置図

TEPCO

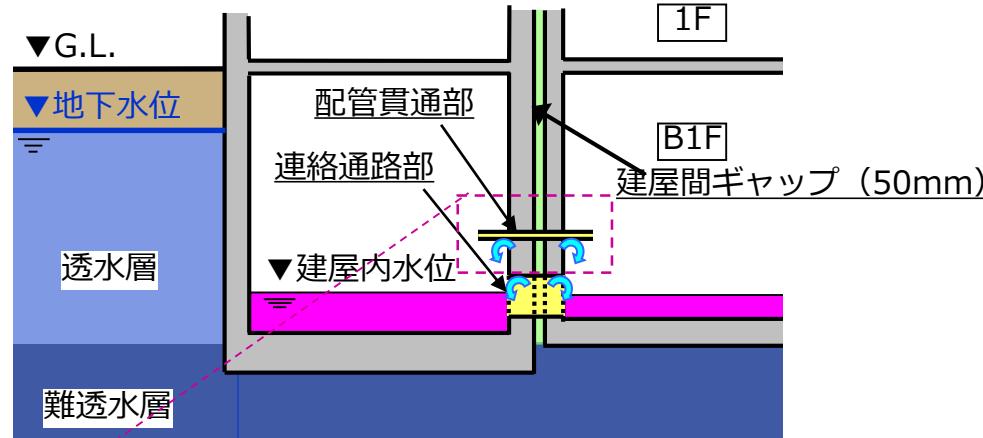
2025.5.13

第28回汚染水処理対策委員会

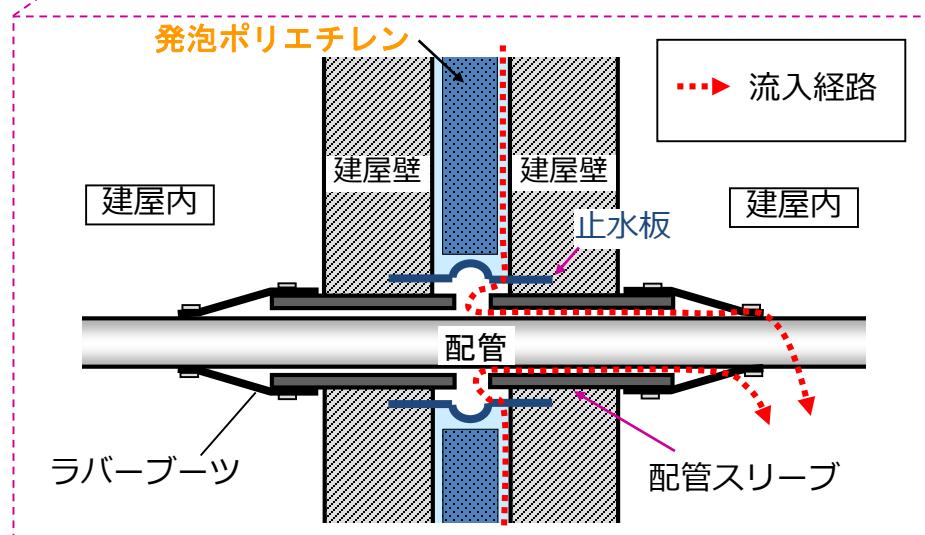


- 各建屋間ギャップ部には貫通配管があり、ラバーブーツ等の損傷による地下水の流入が、他の建屋で確認されている。

※震災前は
サブドレンにより
地下水位は
低位で運用



建屋間ギャップからの流入イメージ



建屋間断面図

建屋間ギャップ貫通配管部地下水流入状況
(2021.7焼却建屋と工作建屋の貫通配管部)



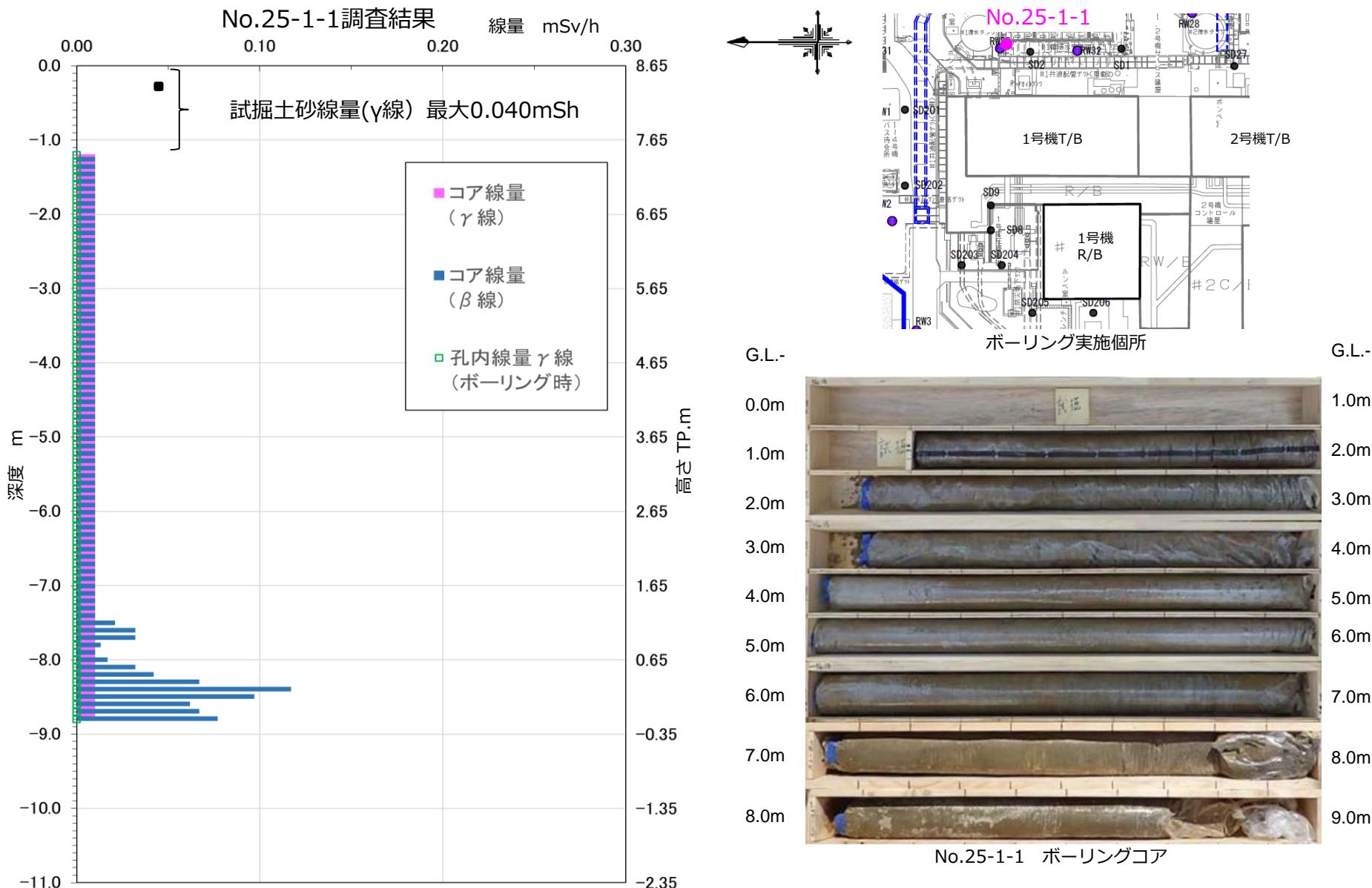
止水により地下水流入停止



【参考 4】地中線量測定の結果

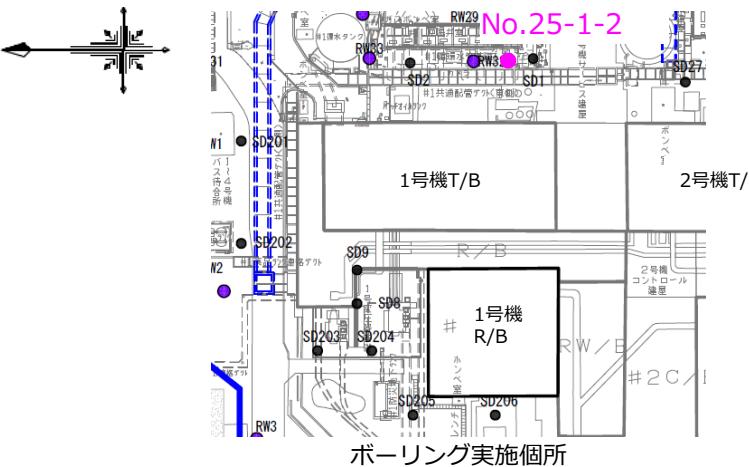
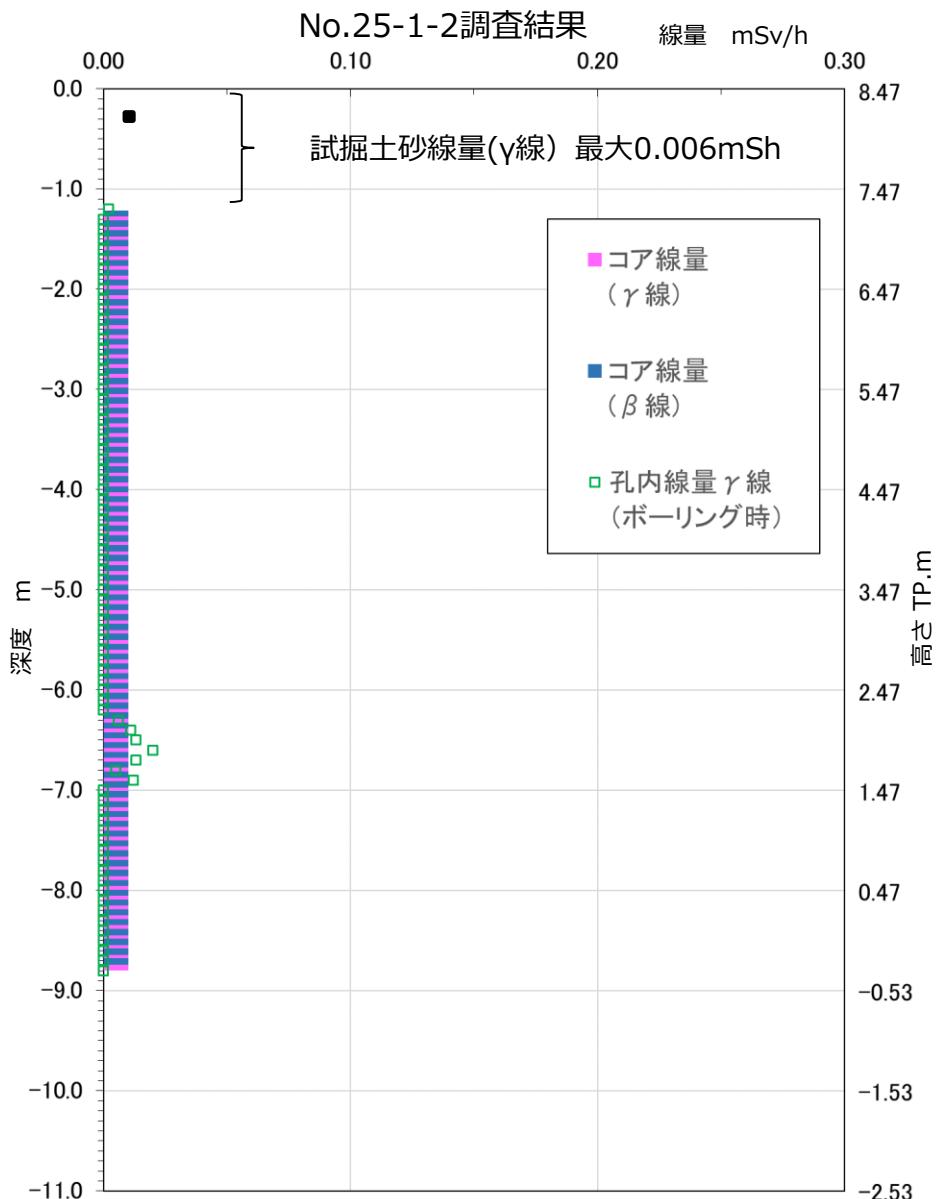
【参考5-1】地中線量調査結果 Bor No.25-1-1

■ 最大γ線量 : 0.0mSV/hr (ボーリング時、コア) 、最大β線量 0.117mSV/hr (コア)



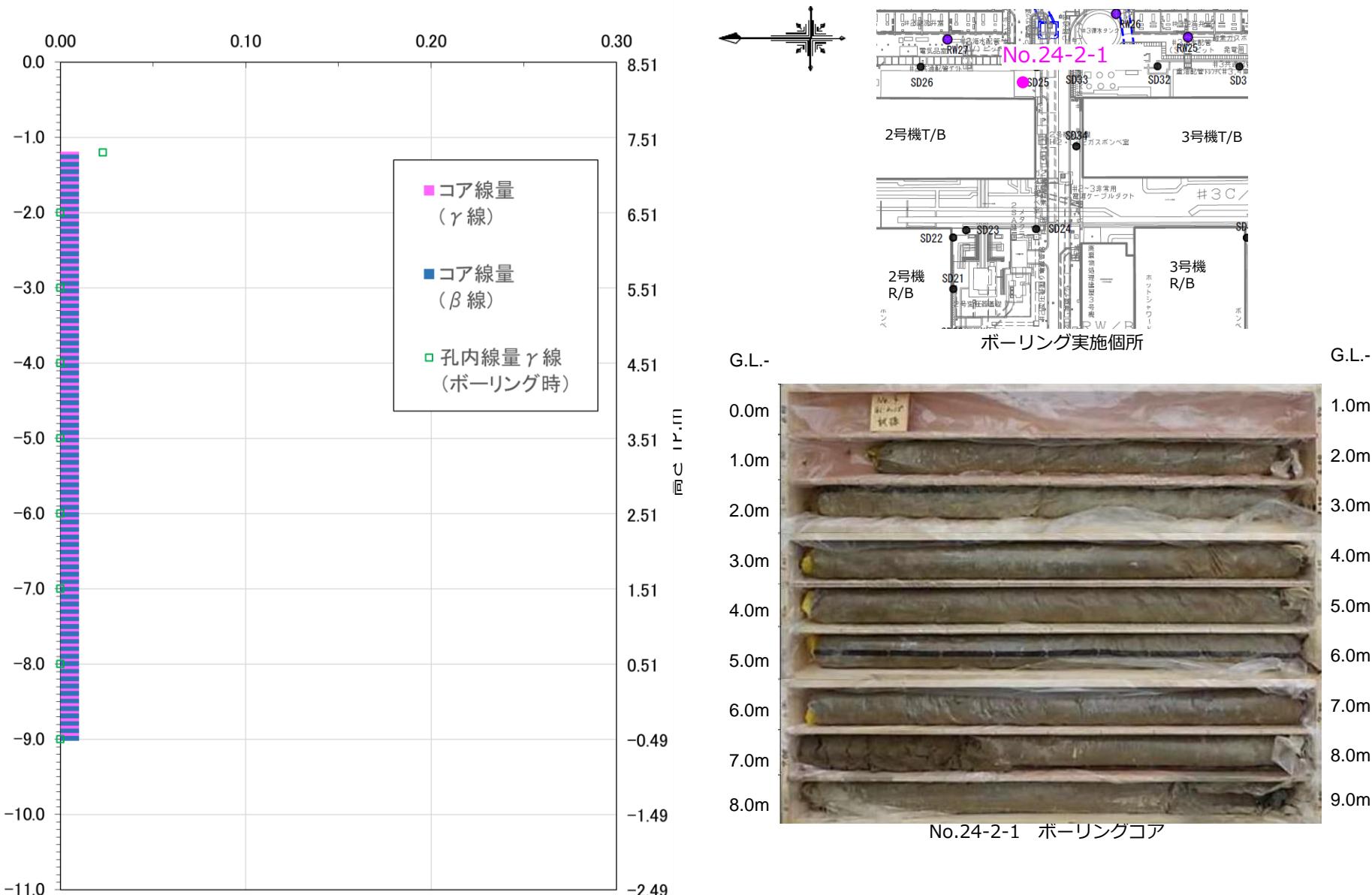
【参考5-2】地中線量調査結果 Bor No.25-1-2

■ 最大γ線量 : 0.0mSV/hr (コア) 、 0.02mSV/hr (ボーリング時) 、 最大β線量 0.0mSV/hr (コア)



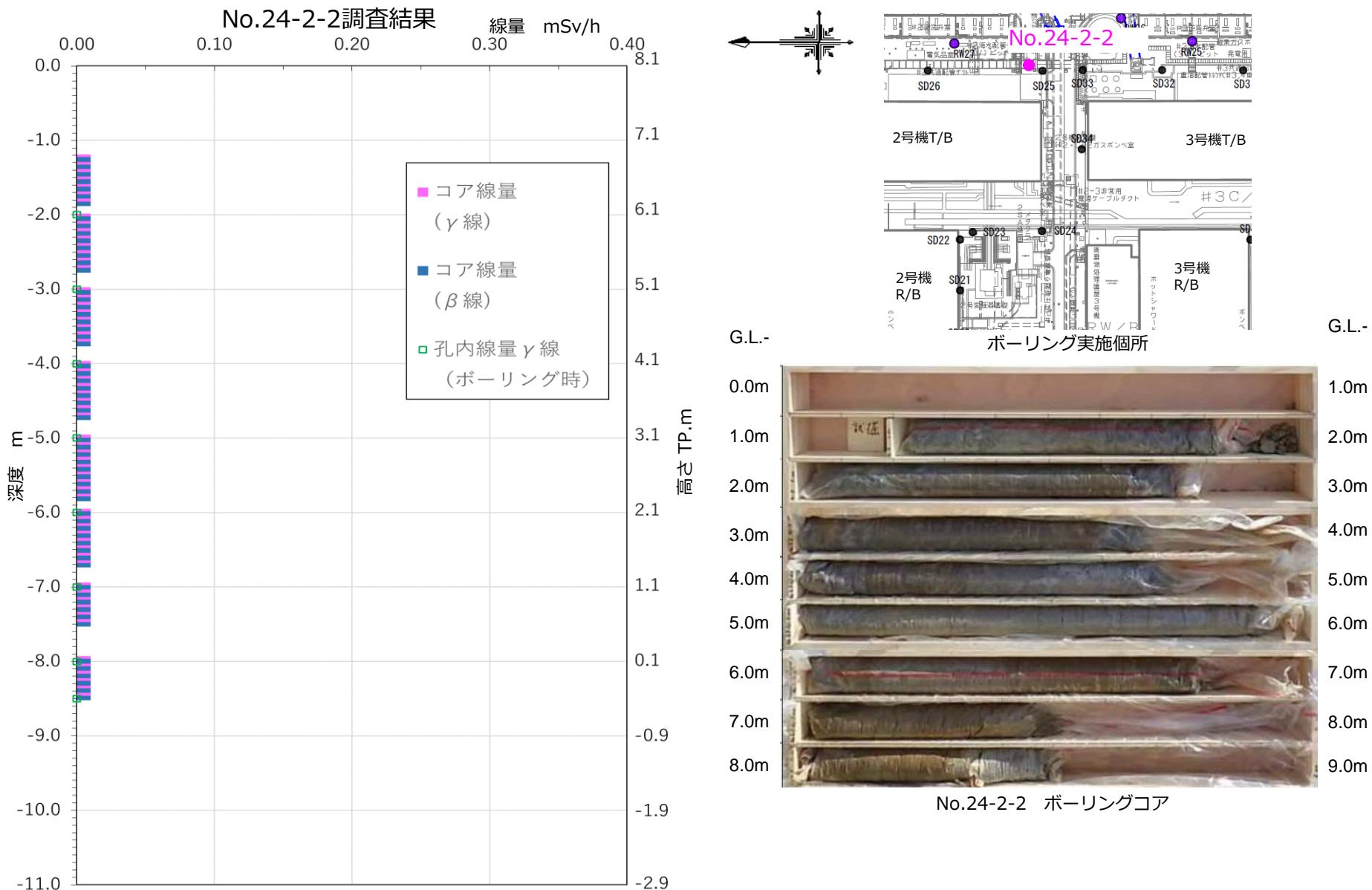
【参考5-3】地中線量調査結果 Bor No.24-2-1

■ 最大γ線量 : 0.006mSV/hr (コア) 、 0.023mSV/hr (ボーリング時) 、 最大β線量 0.0mSV/hr (コア)



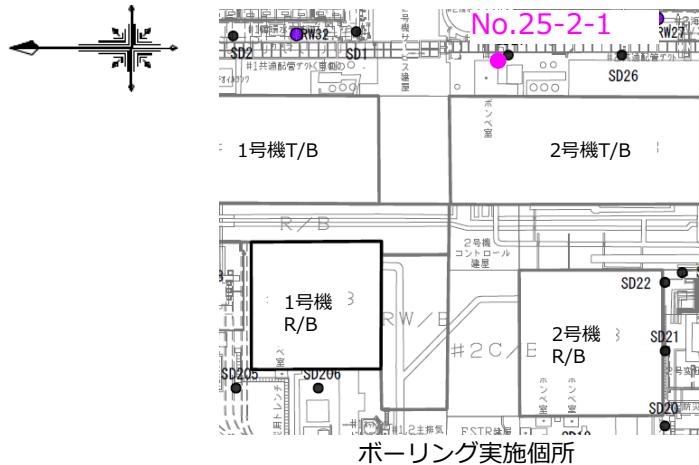
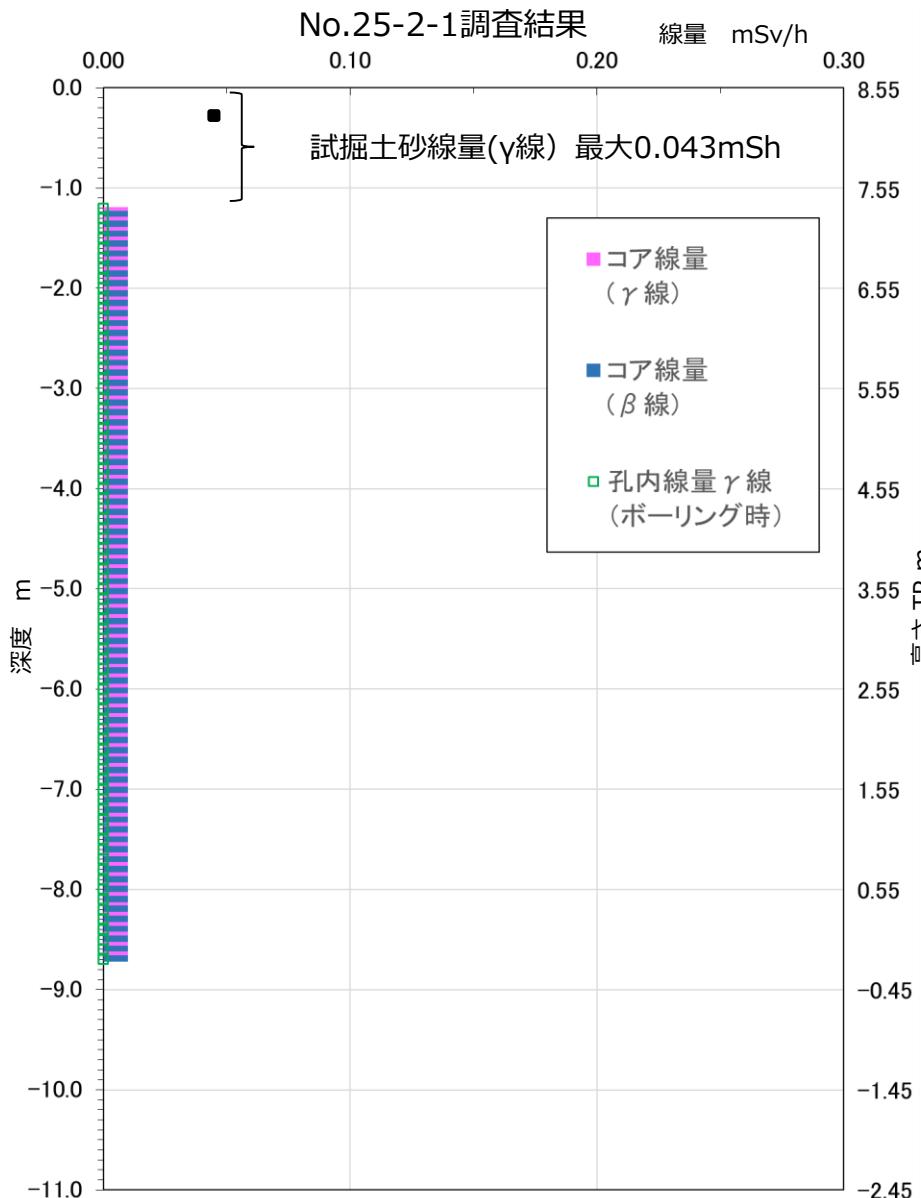
【参考5-4】地中線量調査結果 Bor No.24-2-2

■ 最大γ線量 : 0.005mSV/hr (コア) 、 0.0mSV/hr (ボーリング時) 、 最大β線量0.0mSV/hr (コア)



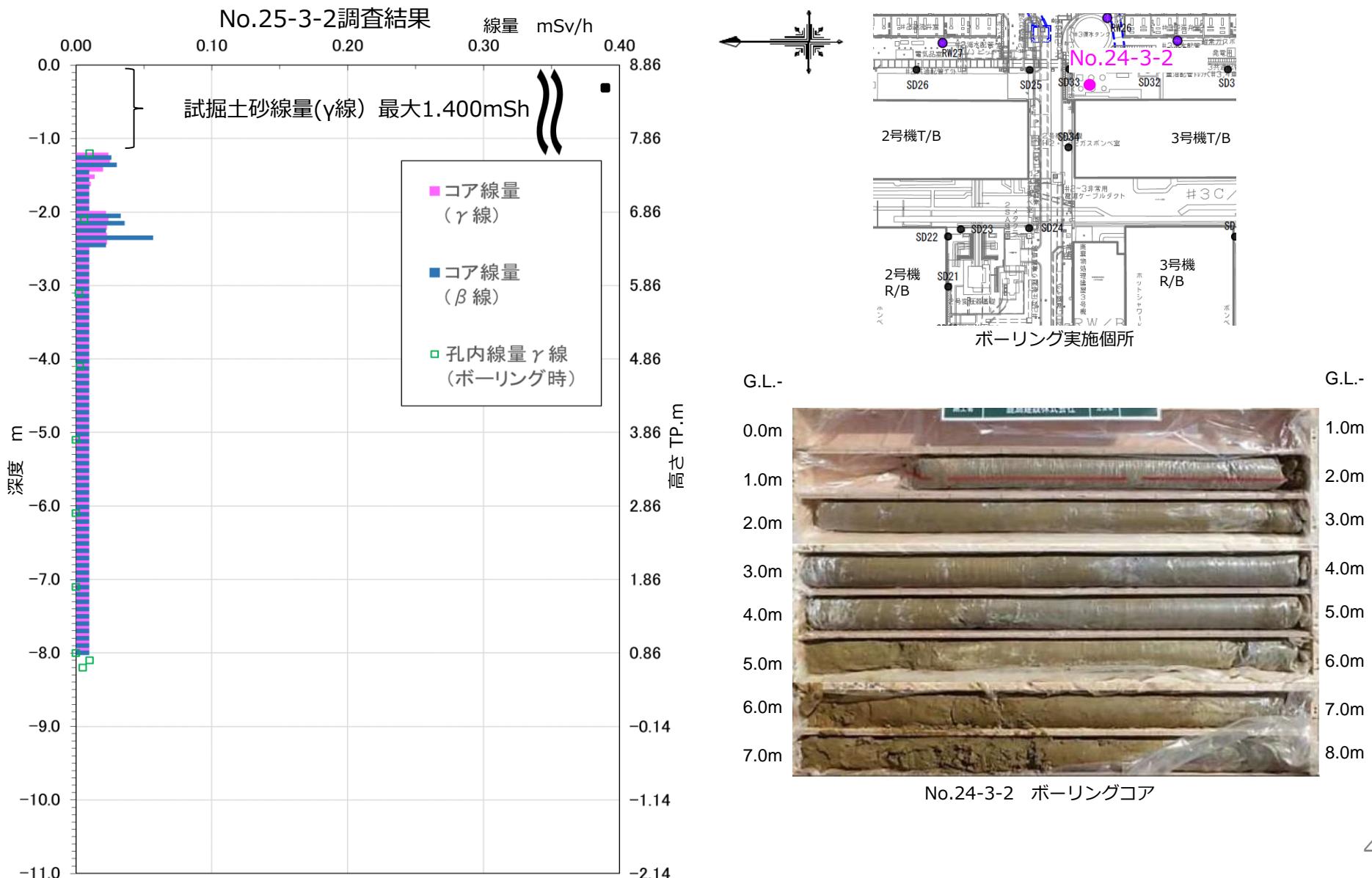
【参考5-6】地中線量調査結果 Bor No.25-2-1

■ 最大γ線量 : 0.0mSV/hr (ボーリング時、コア) 、最大β線量0.0mSV/hr (コア)



【参考5-7】地中線量調査結果 Bor No.24-3-2

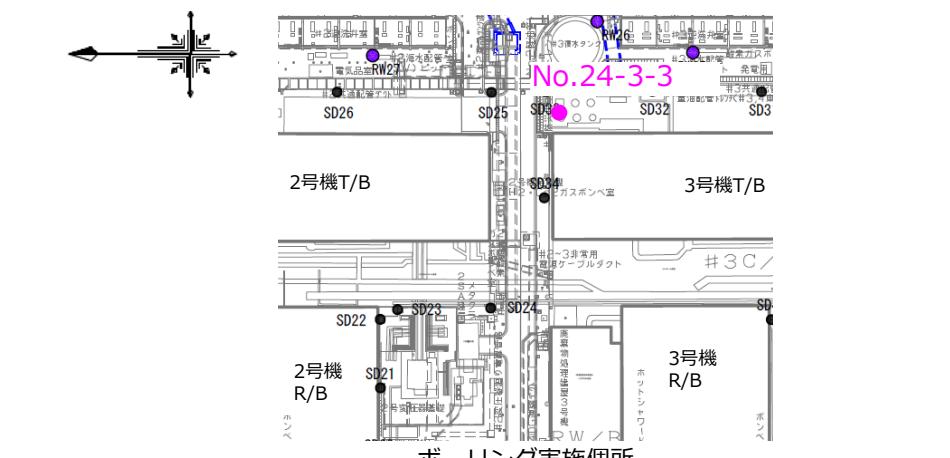
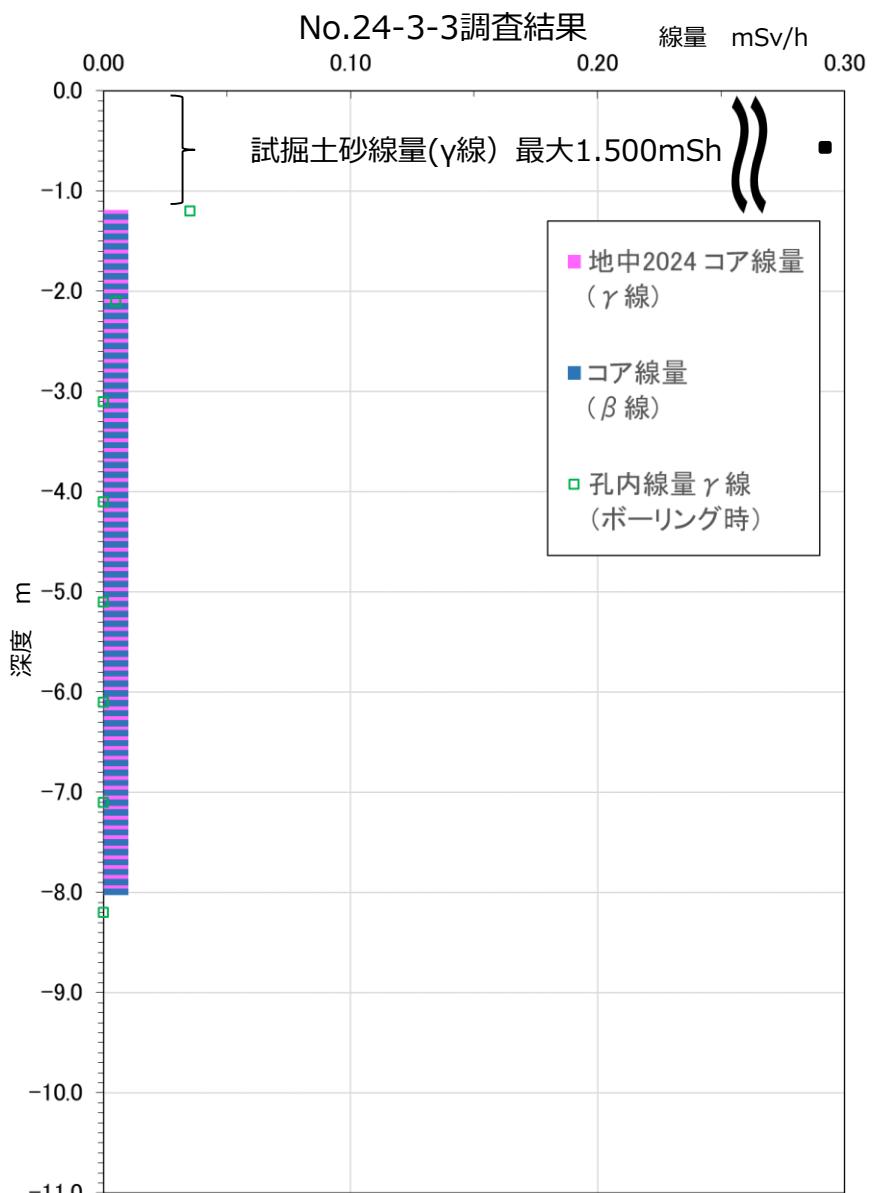
■ 最大γ線量 : 0.025mSV/hr (コア) 、 0.01mSV/hr (ボーリング時) 、 最大β線量 0.057mSV/hr (コア)



【参考5-8】地中線量調査結果 Bor No.24-3-3

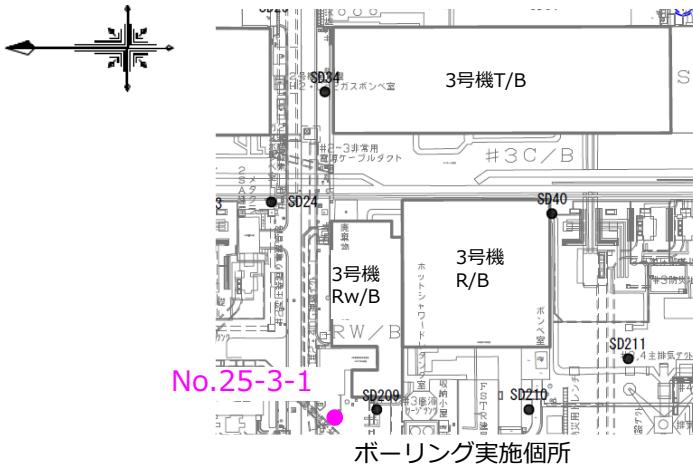
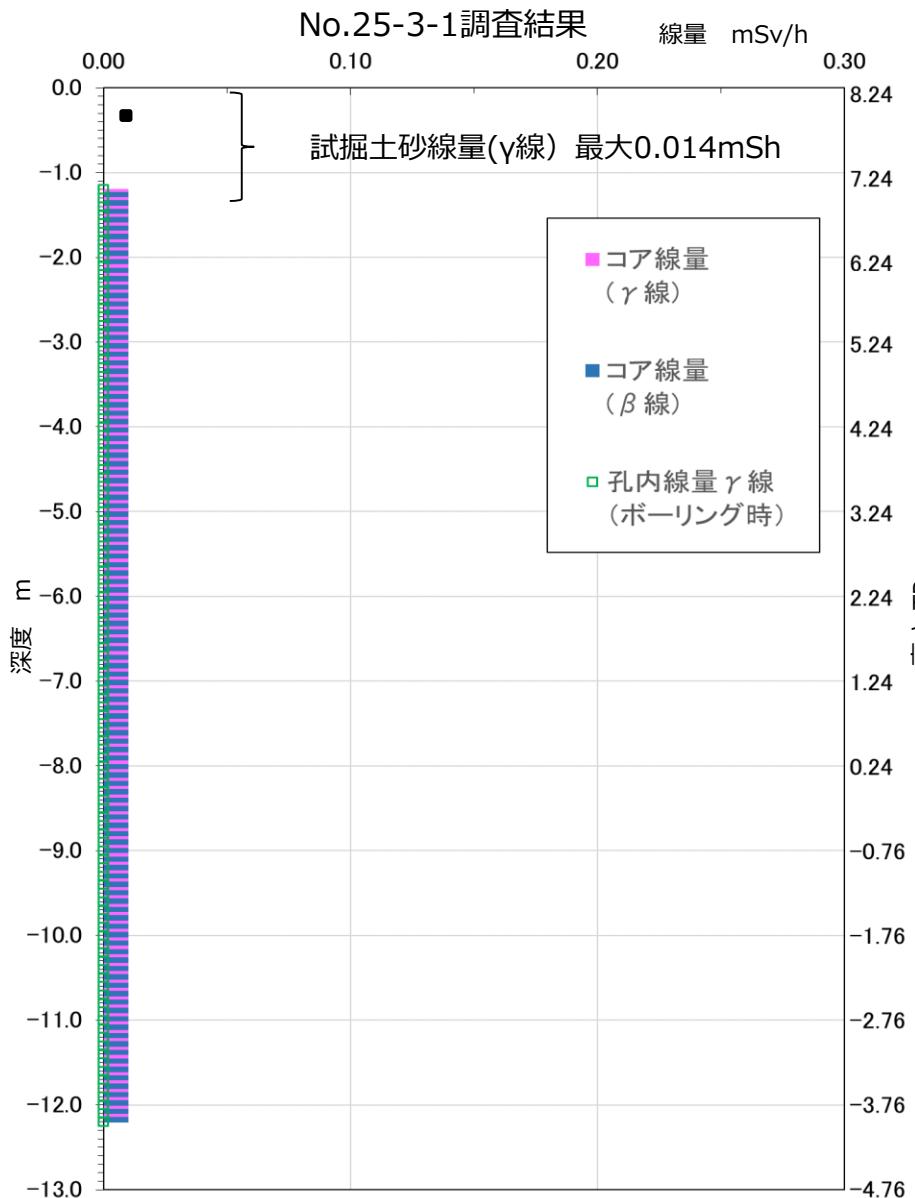
廃炉・汚染水・処理水対策
チーム会合／事務局会議
第145回資料再掲

■ 最大γ線量 : 0.004mSV/hr (コア) 、 0.035mSV/hr (ボーリング時) 、 最大β線量 0.003mSV/hr (コア)



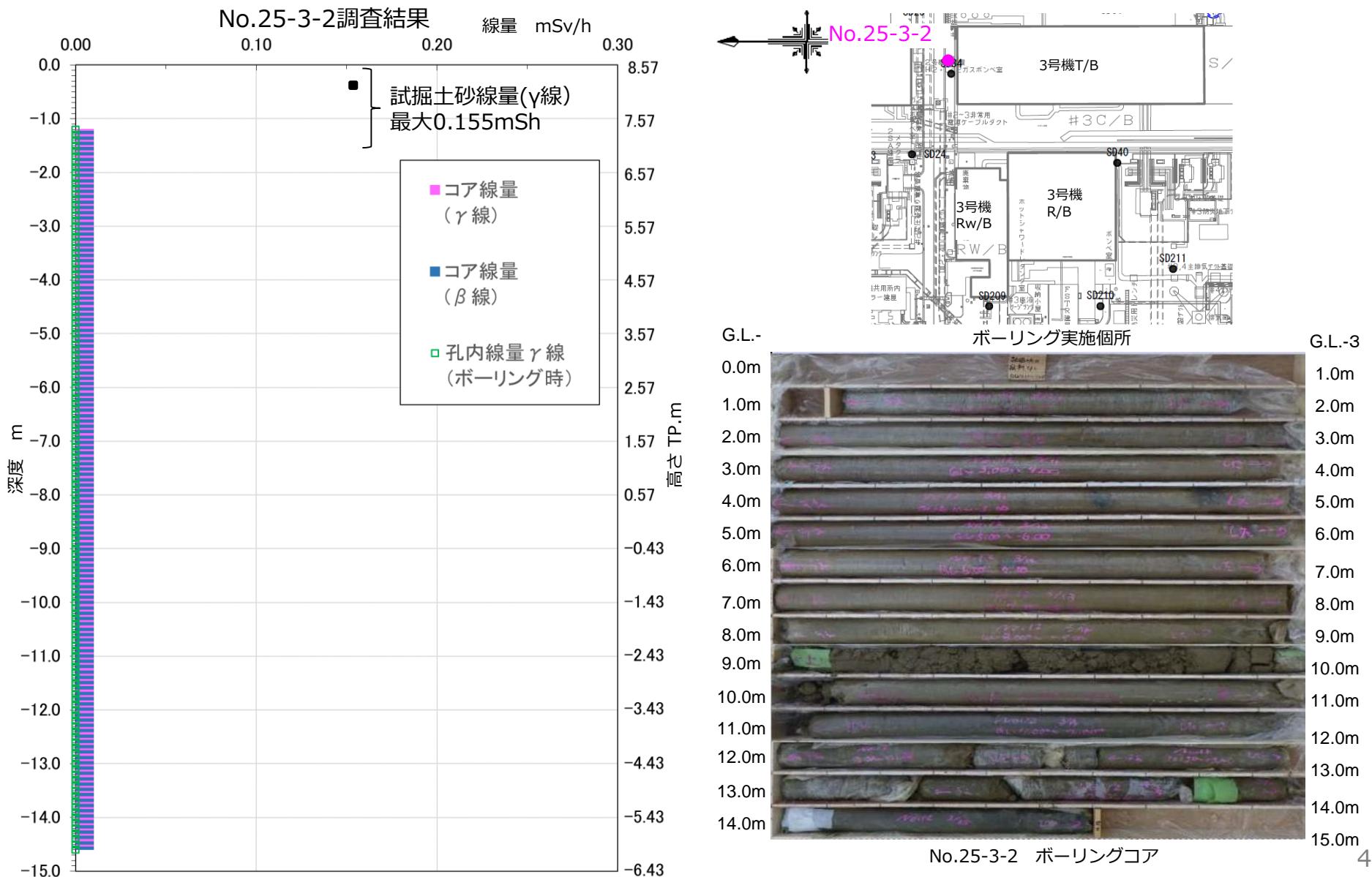
【参考5-9】地中線量調査結果 Bor No.25-3-1

■ 最大γ線量 : 0.0mSV/hr (ボーリング時、コア) 、最大β線量0.0mSV/hr (コア)



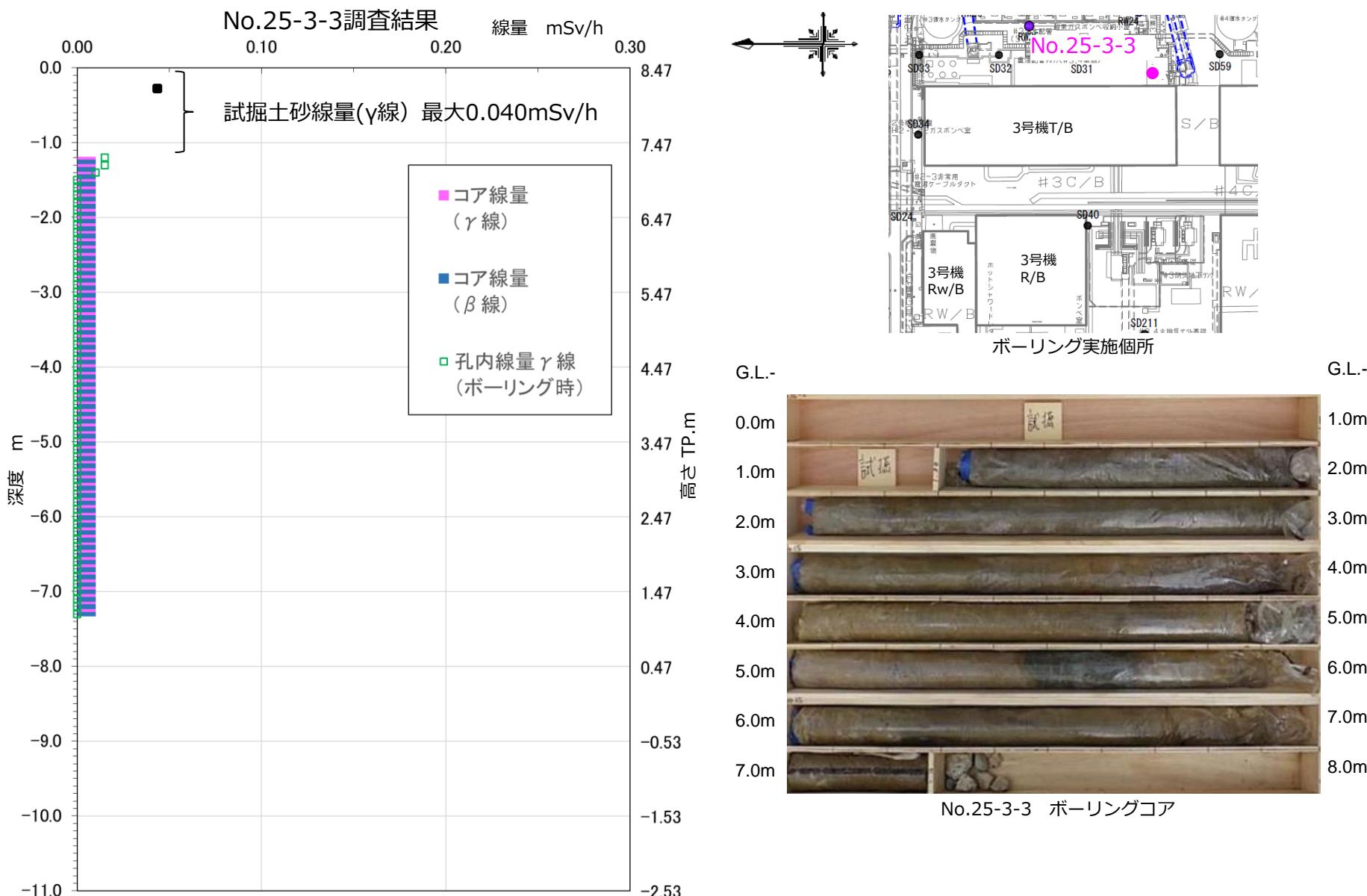
【参考5-10】地中線量調査結果 Bor No.25-3-2

■ 最大γ線量 : 0.0mSV/hr (ボーリング時、コア) 、最大β線量0.0mSV/hr (コア)



【参考5-11】地中線量調査結果 Bor No.25-3-3

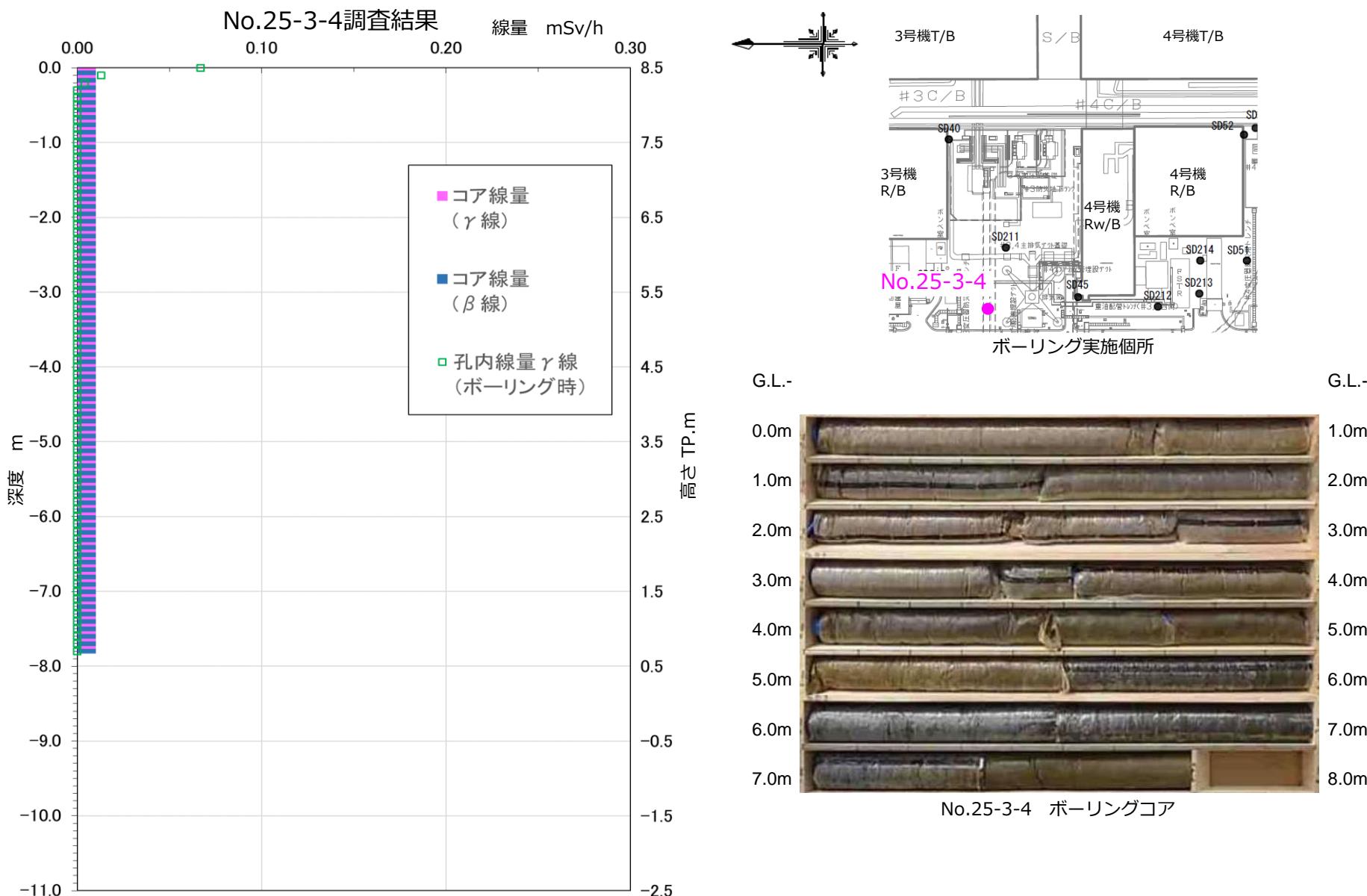
■ 最大γ線量 : 0.0mSV/hr (コア) 、 0.015mSV/hr (ボーリング時) 、 最大β線量 0.002mSV/hr (コア)



【参考5-12】地中線量調査結果 Bor No.25-3-4

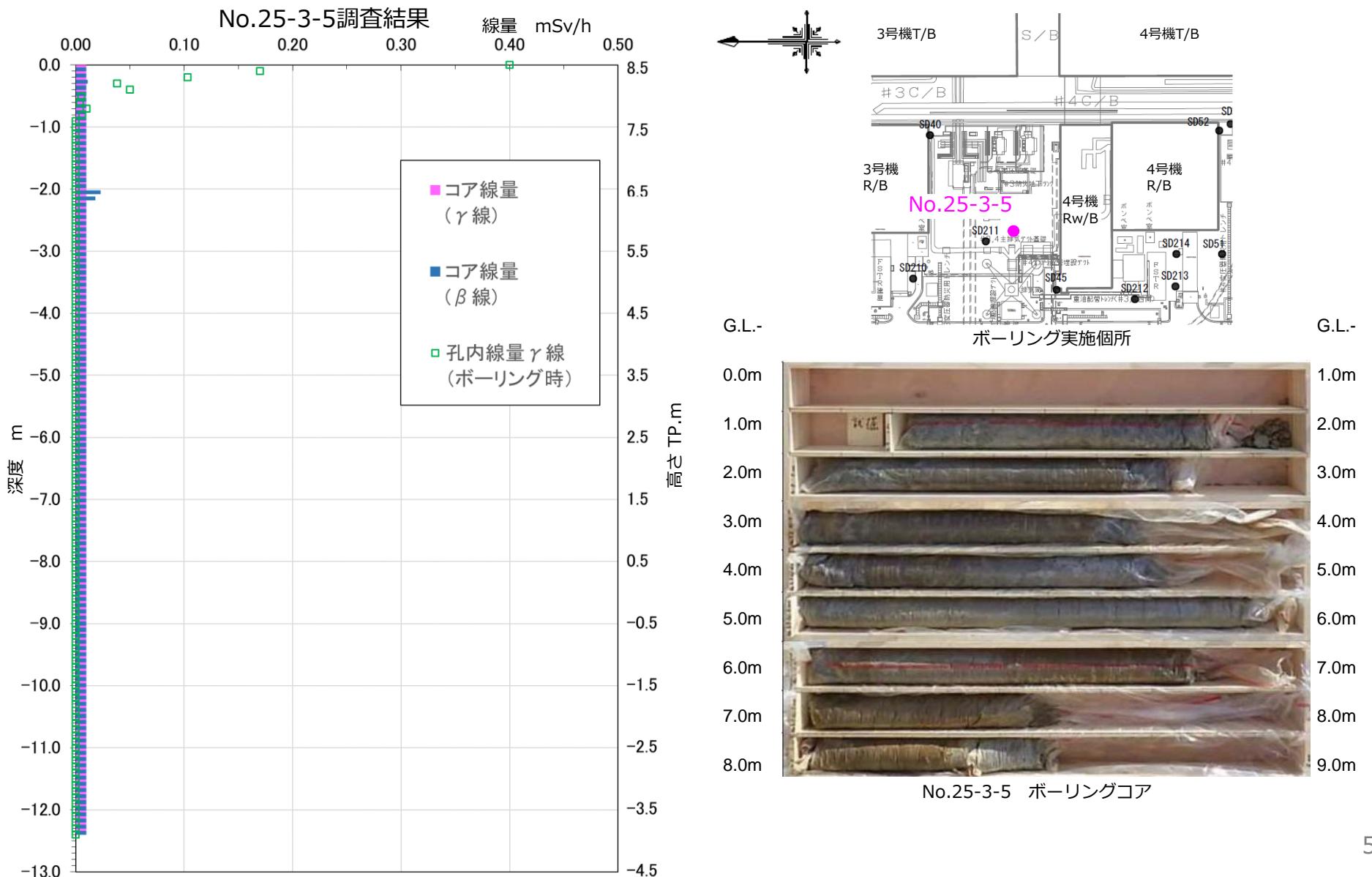
廃炉・汚染水・処理水対策
チーム会合／事務局会議
第145回資料再掲

■ 最大γ線量 : 0.0mSV/hr (コア) 、 0.067mSV/hr (ボーリング時) 、 最大β線量 0.008mSV/hr (コア)



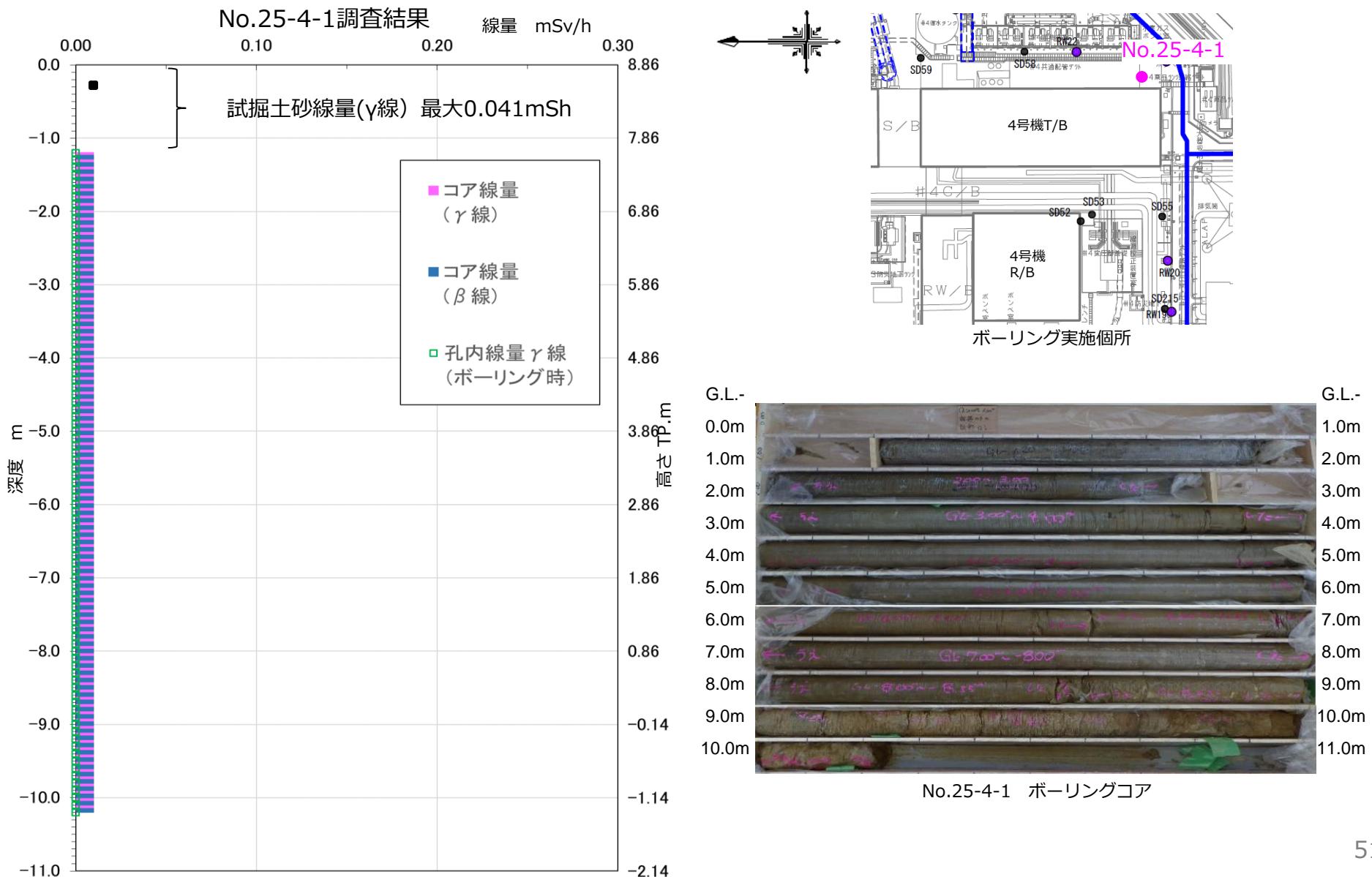
【参考5-13】地中線量調査結果 Bor No.25-3-5

■ 最大γ線量 : 0.003mSV/hr (コア) 、 0.4mSV/hr (ボーリング時) 、 最大β線量 0.023mSV/hr (コア)



【参考5-14】地中線量調查結果 Bor No.25-4-1

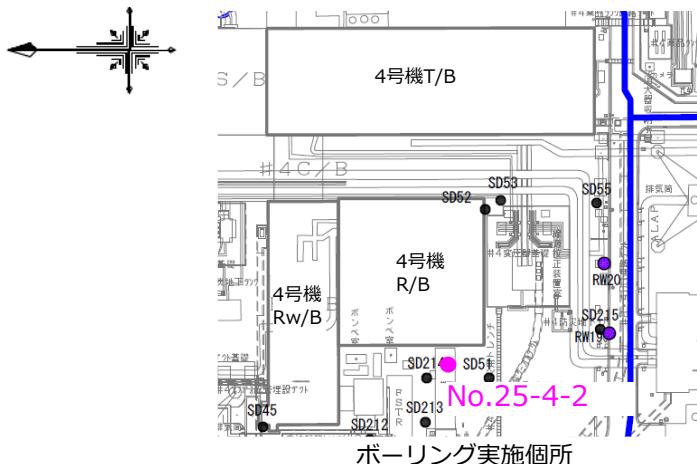
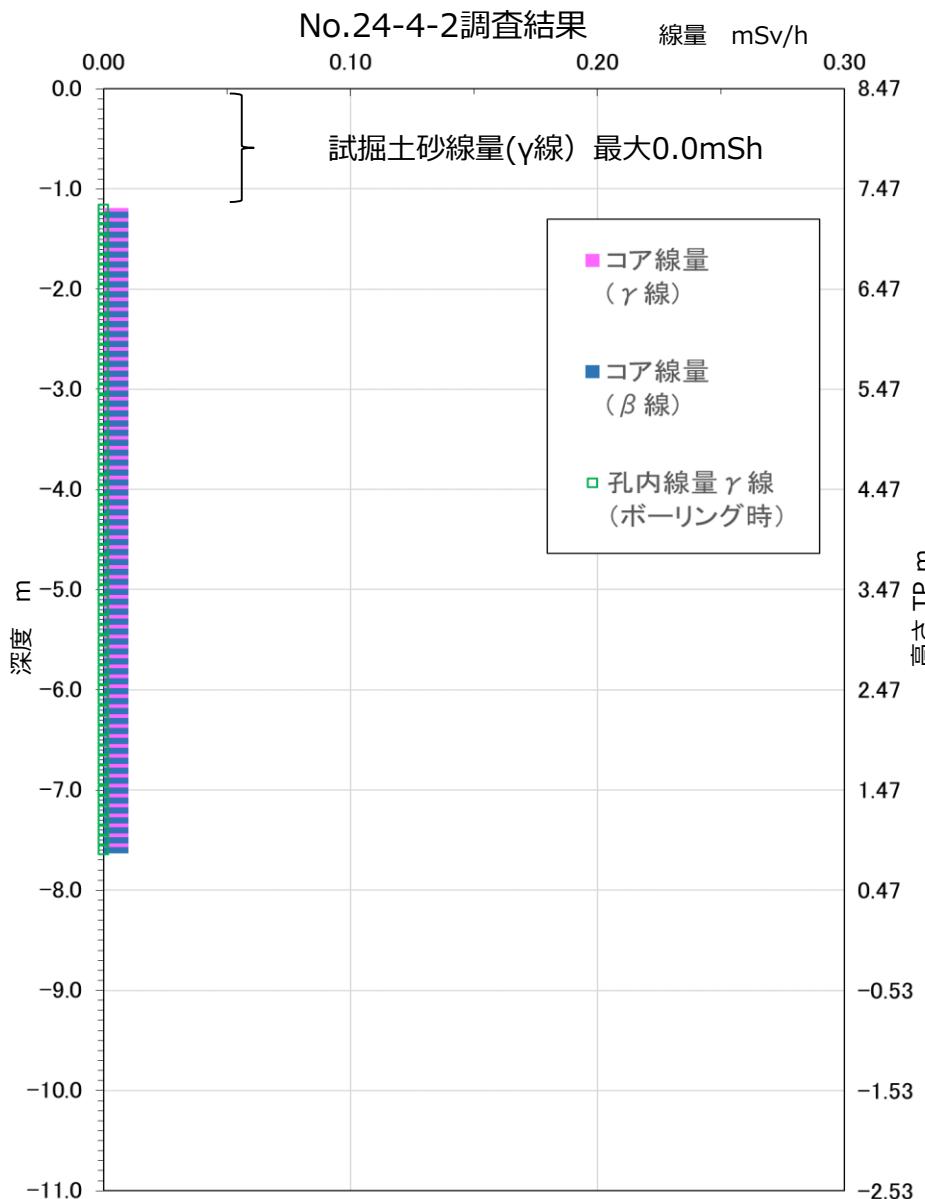
■ 最大γ線量 : 0.0mSV/hr (ボーリング時、コア) 、最大β線量0.0mSV/hr (コア)



【参考5-15】地中線量調査結果 Bor No.25-4-2

廃炉・汚染水・処理水対策 チーム会合／事務局会議 第145回資料再掲

■ 最大γ線量：0.0mSV/hr (ボーリング時、コア)、最大β線量0.0mSV/hr (コア)



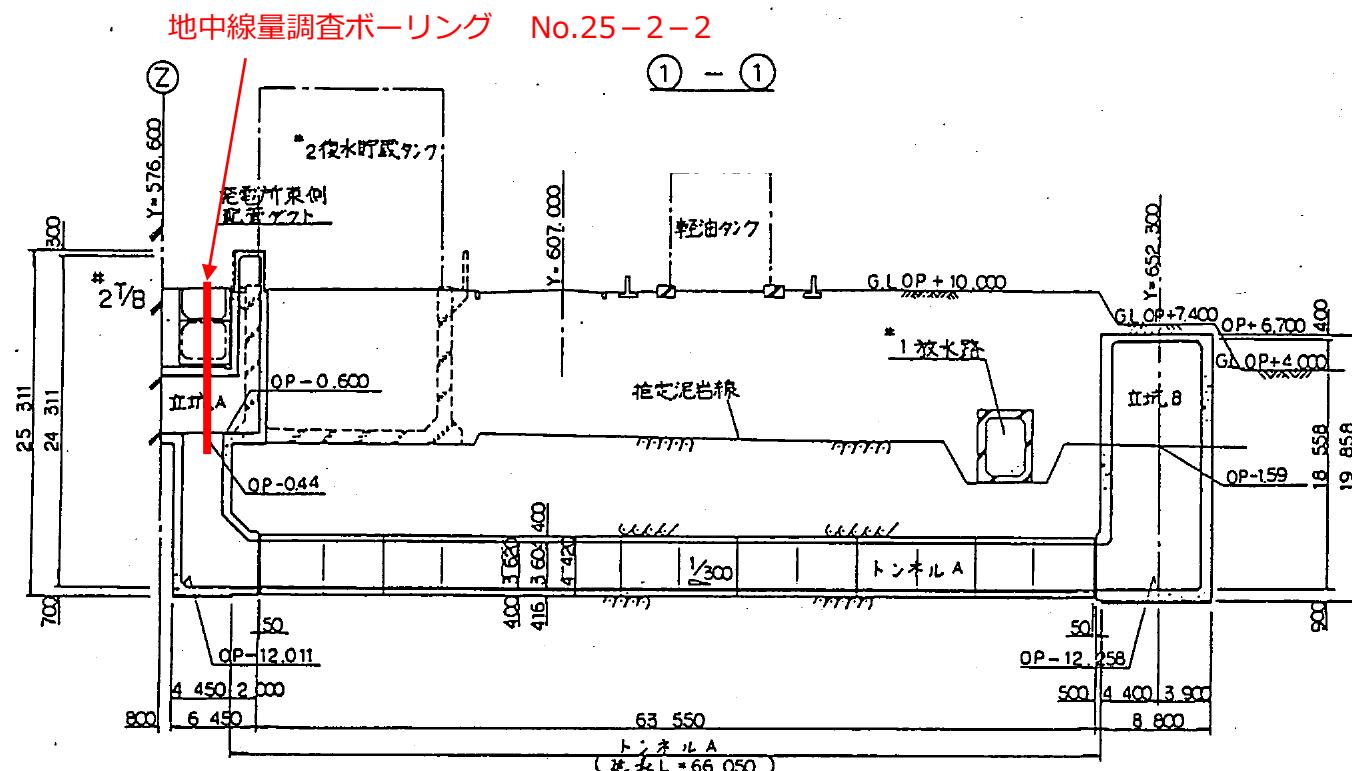
No.25-4-2 ボーリングコア

【参考5-16】海水配管トレーンチの構造（2号機）

第二回汚染水対策検討WG
2013年8月12日資料追記

CO

廃炉・汚染水・処理水対策
チーム会合／事務局会議
第145回資料再掲

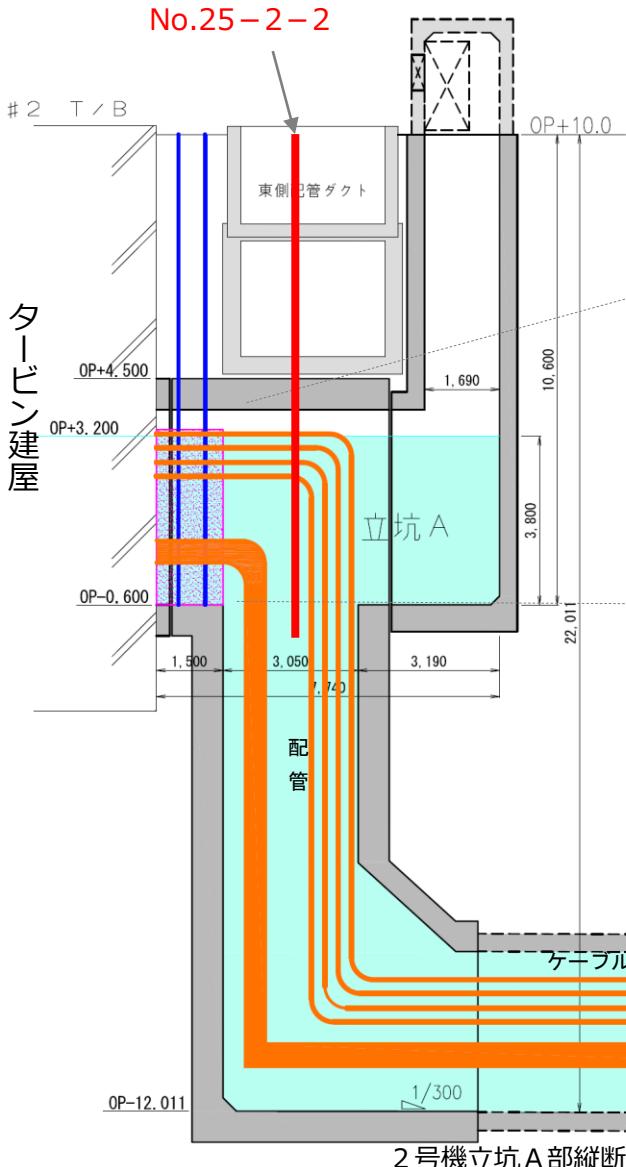


【参考5-17】トレーンチ内汚染水の水抜き方法について：凍結止水部の

廃炉・汚染水・処理水対策
チーム会合／事務局会議
第145回資料再掲

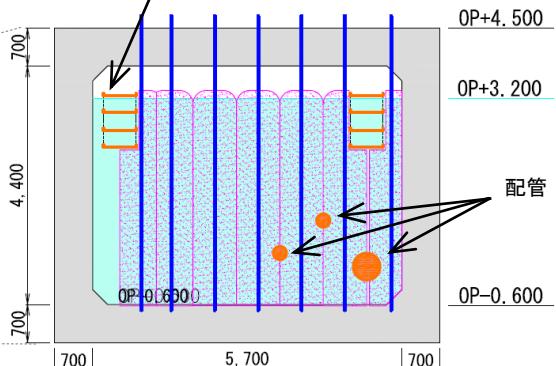
地中線量調査ボーリング

No.25-2-2



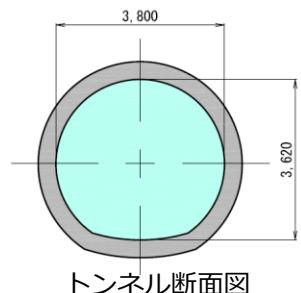
凍結管の側面に配置したパッカーの
内部にセメント系固化材を充填し、
間隙中の水を凍結させ、止水する

ケーブルトレイ



建屋接続部正面図※

※ ダクト側からタービン建屋方を望む



土木工事使用例：主に施工時の止水を目的に使用
・グランドアンカー設置後、空隙充填時の口元止水
・地盤改良（薬液注入等）注入時の一部注入口止水



グランドアンカーポート止水

パッカー材質：ナイロン製

凍結試験では、長さ約2m、直径300mmと
800mm程度

の2種類のパッカーをつないで使用



布製パッカー

：凍結管

：パッカー（内部充填）

※OP.0.0m=TP-1.4m